催花柳

全

特別
チ12
3643
88

故梅若誠太郎氏
昭和年十月廿日
梅若壹戸氏
寄贈

目錄

翁式三番之事 一ウ
和立流之事 二ウ
福日三百六拾番 二ウ
岡口之事 三ウ
真之七段之次第 四ウ
五翁之事 五ウ
服能三人九次第之事 六ウ

式三番次第之事 一ウ
モミ出之事 二ウ
風流之事 三ウ
和式之次第十六番 四ウ
礼服之事 五ウ
生気口之事 六ウ
九七五 七五三 五ウ三

次才真ノ留之事 七ウ
中真ノ七段物 七ウ
純流之事 八ウ
真ノクリ九字護身法 九ウ
同七曜ノ頭之事 九ウ
山颪ノ頭 九ウ
神舞四神相揃頭 九ウ
老松真ノ留之事 十オ
蟻通之ノ事 十オ
老松紅梅ノ舞ノ事 十ウ
熊野車返し 十ウ
同春前ノ頭 十ウ
同二段ノ舞 十一オ
同深頭 膝行 十一ウ

同 合掌頭 十一ウ
同クリ頭 十一ウ
松風中誠 十二オ
同草履ノ頭ノ句 十二オ
同庁男波頭 十二ウ
同中ノ留 十二ウ
同七段真物着 十二ウ
同五段物急 十三ウ
同是留 脇留 十三ウ
沼平像之事 十四オ
小頭流之事 十四ウ
留冠ノ声之事 十四ウ
同クリ段事
六根頭之事 十五ウ
平調四ツ同中名 十五オ
定家上リ僧次第 十六ウ
同墓ノ拍子 十六オ

同和ノ手 十六ウ
笛ノ頭ノ事 十六ウ
袖神樂 十七ウ
金ノ間 十八ウ
三足ノ事 九五ウ
御宮合掌ノ間 十七ウ
芭蕉二重入リ 十七ウ
楊貴妃金ノ間 十八ウ
同 中上ノ事 十八ウ
宋女ノ根ノ同後ノ 十八ウ
法相ノ事 十六ウ
五騎碎ノ頭 十七ウ
石塔ノ拍子 十七ウ
井筒脇ノ扉 四十二ウ
九ノ扉右ノ扉 九五ウ
同火宅間 十七ウ
弱腰小向ノ事 十八ウ
取ノ扉 十九ウ
金剛 逸ノ十九ウ
融菊ノ舞 十九ウ
同花筐ノ舞ノ事 九ウ
百万二体頭 九二ウ
同中上ノ事 九二ウ
鵜馬天狗ノ舞 九六ウ
雲林院ノ段ノ 九六ウ
三番ノ獅子ノ事 九六ウ
朝長二世十方 九六ウ
清経還幸頭 九七ウ
京清大吉 九六ウ
忠列公傳頭 一声 九七ウ
柳来陶ノ拍子 九七ウ
白拍子ノ事 九七ウ

三輪ノ次第 九七ウ
次第如下略 九八ウ
三輪左ノ折ノ出シ 九八ウ
海士ニツ割ノ出シ 九九ウ
海士真ノ一折ノ出 九九ウ
同 筆ノ立 三十ウ
懐中箇 ホ一ウ
板額ノ事 ホ一ウ
簾ノ折ノ事 ホ二ウ
金剛出シ ホ三ウ
同扇ノ次第 九八ウ
同第ノ下略ノ事 九八ウ
神系ノ折ノ事 九九ウ
同水色頭 九九ウ
二股出シノ事 ホ一ウ
松ノ一声ノ流ノ事 ホ一ウ
大出シノ事 ホ二ウ
大会流ノ西流 懸流 ホ二ウ

（并ニ小町等百八等ノ用 ホ二ウ）
三井寺ノ乱 ホ三ウ
猩々ノ扇 ホ四ウ
義長ノ頭（狂女） ホ四ウ
渦巻川ノ箇 ホ三ウ
同深山頭 ホ四ウ
山姥ノ脱装ノ事 ホ五ウ
同深山頭 ホ四ウ
削リ頭 ホ四ウ
同年ノ立事 ホ五ウ
日組扇ノ ホ五ウ
西宮下略 ホ五ウ
幸盤渓次第ノ箇 ホ七ウ
更年ノ事 ホ六ウ
吾妻鏡恵日頭 ホ五ウ
日組扇ノ ホ五ウ

小町流し　卅七ウ
八坂鏑　卅七ウ
同筆之事　卅八ウ
誓之観念ノ頌　卅八ウ
誓教寺尚玄梅　卅八ウ
松郷五能ノ字　卅九ウ
玄ノライ庵　卅九ウ
天敵キリノ頌　四十ウ
同物名　卅七ウ
二人静之事　卅七ウ
同キリ芭梅子　卅八ウ
逝行柳相ノ頌　卅八ウ
同朱定梅子　卅九ウ
同筆ノ七切　卅九ウ
大筋遠小筋遠　四十ウ
乾竜投ノ頌　四十ウ

抑木二股迄　四十ウ
和布刈次第　四十一ウ
五車五切之事　四十二ウ
巡君之事　四十三ウ
追出ノ留　四十三ウ
法會之事　四十四ウ
色紙短冊ノ極メ事　四十五ウ
曲筆出ノ頌　四十六ウ
五車底ヒ　四十四ウ
同七切相ノライ　四十二ウ
小原御幸之頌　四十一ウ
野寺ノ留　四十一ウ
下略　四十一ウ
長服　五長服　四十二ウ
一条殿跡之事　四十三ウ
○此間ノ五ノ字
松風先生之頌　四十二ウ
乱拍子落出之頌　四十二ウ

神樂百絃 九一ウ
華呂浦 九二ウ
門さる事
岡柄ノ事 九二ウ
楊貴妃玉笙ノ事 九二ウ
序事初段事 九二ウ
雲薩山井上 九三ウ
放下僧 九三ウ
朝長懺法 四二ウ
亂 四六ウ

一重流一調一声ノ方記ス

次男休之 九三ウ
白善界ノ事 九三ウ
誓願寺 合掌ノ留 九三ウ
項羽呂敖童附 九三ウ
コス コサ又ノ謂 九三ウ
三輪イ呂有ノ 四十三ウ
熊野三段ノ舞 四三ウ

純又純又謂 九三ウ
雀頭雀地ノ事 九四ウ
呂敖童舟 九四ウ
打潜イ呂ノ下 九五ウ
上ル拍子 下ル拍子 九四ウ
七段扇一声 九五ウ
半迄ニ事 四二ウ
行地地ル拍子 九六ウ
シクリ四ツ拍子 九六ウ
行生物一ノ 九五ウ
源平ノ拍子ノ事 九一ウ
十ケノ扇 九五ウ
上僧下リ僧 九一ウ
去ノ扇 九一ウ
鴻毛ル鴻毛又 九一ウ
刀動再動 四十一ウ

○此方ノ不ノ有

翁式三番之事

三番三ハ誠生ノ表ニテ幕ノ女ノ姉布ニ
タトヱ沖産ノヒモシトリ如ニテ則幕有
面箱出スハ又ハ出生ノ表ス笛座ノ吹
出スハ又ノ初多表ス笛ノユリハ初音能
ヤハノ子ビナリ

弐三番之事

観世ノ方
面箱　ニテ柏先ニ座ス　金春ノ面箱
翁　千歳　一ノ松ニ座ス　持千歳也
三番叟
笛
手先
頭取

笛吹出ス小鼓出ス翁揚出ス
大鼓小鼓ノ方ヘカニ向居
地謡斜ノ方ノ後ニ座ス

笛
大鼓
左鼓
地謡

大鼓調メ而

翁　二
三

●●○●○○○　コナニテ歩ス小刀ノアイヘサニ

歩出之事

坎艮震巽　離坤兌乾ノ八面ニ通ス合セ六神ニ
●T T T T
●●●　エ　エエエエエ　エエエエエ　エ●
ヤハ
●一●エ一エ　エエ●
此四ノ次第ハ座ヨリ方位四ノ神ヲ勧ニ有表ス
左青龍　前朱雀　右白虎　後玄武　右落陽ノ四方四神ヲ勧ニ有表ス
右ノ如ク歩出シテ四ノ神ノ囃子ニ
立鏡有時枝ヲハ三段メニヨニ

立頭之事

風流

タホチホホホ　タ（コノ八声ナシ）タタタタタタタフホホ

如右ヶ留ルト　又ト謡ワキ口スシテ名宗

一見セさせやと稼ぐ云ト大小打ちらい立合トナ切

謡所次第謡次第ノ終ナ切謡ヲモ有脈ヲ弱

脈六ノ下ヨリ出るも有ワキ口名宗迄て大鼓早

目餘りて脈つし入モ有　小鼓ノ色敷流枝

初ノケテ七ツ也ワキ口ノ色敷ハ為ヨリ位かるし

頭より打出ス也　脈指掛り中程を来て色

右之とも以一ツ二ツニテモ可ナ脈舞台へ入るく

ヲ合ぬ頭よる時流派及七ツニテハツメヨリ

留る餘るり為ノ雑ハ頭枝同ツニテ留ルワキ口

留所三ツニ庭色地南都松ノ下ワキ口脈まくノ

うちまて西面向て立て居るとあるり礼脈

同脈能ハ後向

開口

脈色敷ニテ出舞台ニテ礼シテ立ワキ口シ謡納メ

名宗迄ニテ高砂の浦なるも一見をさせやと稼ぐ

○ヤ　△ヤハー　●ヤ　〇ハヤハ　●ヤ　〇△　●ヤハ　●ハヤ　●ヤ　〇ハシヤハー

乙　今をはしめの旅衣くく日も行末そ久しき

乙　しをはしめの旅衣日も行末そ久しき

上テ打込　今をはしめの旅衣くく日も行末そ久しき　●ヤ〇

ハシヤハー　ヤ　旅衣末はるくくの都路をくく

地ヘトリ二返ノ時ハ不切ニトル地ヘトリ後脈ニ立

三返ノ時ハ三返目ニ打切トル

本式之次第打分之事

九七五 初日	初打頭（文字）	二上略（月日）	三中略（浅陽出脈出ル 早目以下）	四越以	五謡以
七五三 二日	初上略	二中略	三打頭	四越以	五謡以
五三三 三日	初中略	二打頭	三上略	四謡以	五謡以

小笛教ノ中ヨリ次ノ如キ事ヲ出スト雖モ
財礼席ヲ立ル迄ハ笛ヲ吹ク事ヲ禁ズ
笛ヒギ次第ナリ

腸結真ノ次第ノ事

上切テ久ニツナリ ●ム△ヤハ●ヤハ●ム八 ㊀間天神七代 天地人ニヲ頭

初段上略

上切テ久四ツ ●ム△ヤハ●ヤハ●ム八 ㊀間地神五代 父母ノ頭

二段本頭

上切テ久ニツ ●ム八ヤハ●ヤハ●ム八 ㊀間天地人ニヲ 日月ノ頭

二段中略

上切テ

四段腸出頭

●ム八ヤ刂 ○○○ テテ、テ○ ヨセツ、ケ

宝久サト幕ニ腸ハ久ニテ出ル久ツ女ノ姉布ニ
タ(ニテ右ノ件上書アリ
浅陽ノ頭全胎西郎ノ頭トモ

五段七曜破軍ノ事口伝

上切テ ●ハヤハ●ハ●△ヤハ●ム八 ㊀久ノ刂ヨセ 結ダルキガミ

上切テ ●ハヤハ●ハ●ム八 ㊀久ノ刂ヨセ 結ダルキガミ

腸結真ノ次第ノ事

流頭

切 ●ム八●ヤハ●ヤハ●一工

㊀頭七曜ノ頭ヲ云テ女ノ頭ヲ又鉞頭ノ事ニテ早ノ頭ノ
外ニ和布刈流同丁

切 ●ム八●ヤハ●ヤハ●ハシヤハ

右秘事ニ次第也

七段謡頭

礼腸ニ幸ノ事

腸結真ノ事教ニテ腸出ル腸結真ノ事

ニテ礼ツ左ル方ハ一声ノ拍子笛ノ頭ヘ付ル時ハ笛
ヒシギノ時ニ引付頭ヲ頭ヲ早目致候ワシ
立ガラ向合ト視以テ切次第視ハス座敷ノ
内ヨリ笛ノ方ヘ有之ツ声出ル完口脇用事
●ヤ〇ハヤハヽ●ヤ〇△ヤハヽ●ヤ〇工ハヽ　マメ以ナリ

無翁

翁代圧
其座ノ所ニ有外ニ立ル也

脇翁ノごとく拍子方笛座ヘワシ出ル翁ノ後ヨ
座リ笛モ左右吹ナリ脇翁ノごとく笛座ヘ出
礼スル時大鼓ヨリ
ヤヒシギ●ハヤハヽヤ●〇△ヤハヽ●ヤ●ハヤ●ハヤ●△ヤ●　先ヨリ少モワキ見合テ
ハヽヤハ●●●●　ヤア●
揃キザミツケ次脇立合テ切揃
礼脇ノごとく

半開口

脇座敷ニテ出る事

只今海路ヨ静に　向合ニテ半完口相見之　ツケ上ケ〇ヤ△ヤハヽ●ヤ〇
出て日の本のくにさかへの宝を鎮ん　西滑
東海の
次第同音ヘ返返謡時ハ　不切トル之
地ノ謡ヲ脇ヘ返三返ノ時ハ　打切トル之
右二示
脇好ムナラバ二返ニテモ切三返ニテモ不切之
西滑出て日の本のくにさかへの宝を鎮ん
西滑出て日の本のくにさかへの宝を鎮ん
右三返ノ時

半完口

真ノ座敷ナル笛六ノ下ヨリ脇出る脇松の時まで
余情ありシテ柱ノ内ヘ入西面向謡ヘ三足来リ時ニ
以三ツ打留ル扱柳先ハト名字ナリ　名字也て
次第次第視ワス座ノ脇能ノごとく　次第三返ノ時ハ

弓切テ跡ノ段ニ返ノ時ハ又弓切也跡ノ段半宛口ハ
二返ノ初也先半宛口ノ留返ヲ脇ノ半二返ノ時書ツ
呼掛ハ半宛口ノ替ヲ知之半宛口ハ観世ニ有リ下ハ
白楽天福王半右半宛口每ノ丹半宛口有リ

脇能ニテ無之ノ脇能ニ又九 次第手組

九七五二手
蟻通　道明寺　山姥　後ハ前ノ通上略十二
福脇本段　二段上略　三段中略　脇出ル

今ハヤリホホホ　ヤリ　ヨセテツヽケ　脇三人向合
和哥のんを
手上諷歌　今ハ　ハ　今　ハシンヤハヽ
後ヽしてく玉津嶋よ參らん　地返し
和哥のんを後ヽしてく玉津嶋よ參らん
信サラリト後ハ上テ手返テモ
右三段ノ次第習ナリ三返ニ返返サヌバ不手吉
初心ノ脇ナラバ後ヤ手ヤしきと也

次第九七五
乙ニ　ツヽケニ　乙ニ　ツヽケニ　上初段本段　乙一
ツヽケニ　乙ニ　ツヽケニ　上二段上略　乙ニ　ツヽケ三　上中略

七五三
乙ニ　ツヽケニ　乙ニ　ツヽケニ　上初段　乙ニ　ツヽケ三
上二段　乙一　ツヽケニ　上三段

五々三

次第真之留
今を始めの旅衣いまを始めの旅衣
日も行く末そ久しき

真之一教

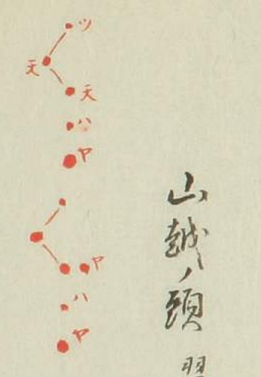
本真七段教

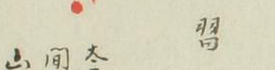
八頭小教

流小教

右真ノ一セイシ眼能三番目当初位ノ上ニ打ヘシ初位ハ位ノ上ニ打ヘシ
当能ハ位牌ニ打ヘシ初位ハ位ノ上ニ打ヘシ
初ノ一声ノ留ノ上ニ打ヘシ

越流　軍陳ニ流ル云



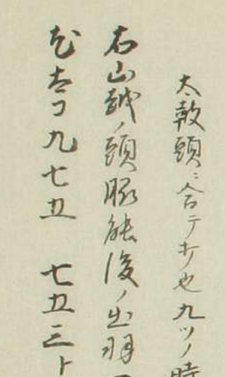


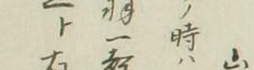
節分宮ナドニモ打　九字護身法ニハ打ヌモノヨシ

右ノ越流ノ所ニ三位目ニ打ヘシ眼能三番目ニ打ヘシ
打ヘシ也軍陳ノ場所ニテ打越也真時ハ此流ノ法
九字護身法ノ頭打ベシ

葛卵家十ケ條ニ秘事ノ一也

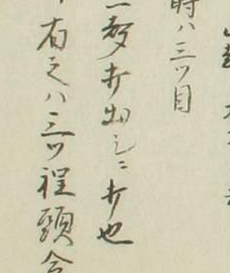
真ノクリ打掛九字護身法ノ頭





九字ノ内護身法ノ別立ツ也

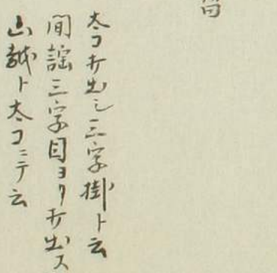
真ノクリ頭　七曜之頭



陽気ノ法ヲ云ヘテ南校充ツ
右頭校七ツ也

右七曜ノ頭　江口陽気ノ法ノクリノ中ノ頭ニ打ヘシ

山越ノ頭　習



太教頭ニ合テ打也九ツノ時ハ三ツ目
山越ト太コニテ云

右山越ノ頭眼能後ノ出羽一打ヘシ打也
ナヒラ九七五　七五三ト右ヘハ三ツ程頭合テ打ヘシ

神楽四神相殿之頌

初段 太鼓入ハ ヒヤ ヒヤリ ヒウヤリウルイ ヒヤリウリ

高砂松之囃子之事

かゝふよく 切拍子拍也

ニテ謡ノ仕舞スル事有 松ニかゝふツカキヨセル仕舞也

高砂ノ舞盤渉ニ吹事有

御神楽ノ後ニ戸川高砂吹 紀ニ清水落ル事

老松紅梅之舞

斎をうらし舞とまし

舞破掛リ中段一ツ有モ イロエニイニモ 舞ノ時カク真序而シテ之

勝出立遠る有此時ハ後かと謡ニ乎メ終 試頌

女へと男發素袍又ハ服素袍あり

早メ次ノ所ニテ拍

ゆきかへる松風も梅も久しき恵みを

めでたさも

祝言謡返し老松留事也今春ノ太鼓ニハ真留と云

蟻通 ツクス声

あらおもしろや君が代のすぐなる道をあらためは

あり

ハノ声掛ヤウハ下略ノ心前ノ ヤノ声殺リカケテ ハノ声ノ後 有へし

又云

上掛り所地ニ行時ハ切モ居ノ所地ナリ

上掛りモ本地ニ行 又アシハ乱 掛切テハト小脈声掛ル

熊野　車返シ

シカケ切中略サテ地ヘシロシ車返シ
上ヲ上畧

上ヤ△ヤハ・ヤ△ハ・ヤリ・ハ・ハ・ー・ム・ヤシロス　牛飼車
又シカケテ切ヒ地ヘシロシ7ケ車返スヒ上ケ
上ヤ△ハヤハ・ヤ△ム・ヤハ・ヤ△ハ・ハ・ヤヤ・ヤハ・ー・ム　牛飼
ヤヤヤ・ヤシロス　ケ方ヨシ

春前之次

もつくや　其おもて面あつく

ケ次ニ引カケテ其ノ次ニサリ切テサゲ
次サハトヒニサゲる也

右末ハ合双ノ法ニ中略サテ其ノ手ヲアレキ由好ミ其ヲアサル
真ノ手取ナリ

会浦頌

此前ヨ会浦シテ　此ノ
ケ声ナシ　ハシヤテモ
ケ曲リ現世流ノ祖ニアワズ　就会浦シテ

クリ頌

うやうやしき世のもろ人の　ヤハ・ヤ・ヤ・ハハ・ー
すくのり　ヤ　ム　初段之一ニクメシ　初段ノ所ニテ二段メシ
　　二段メ所ニテ三段之舞ヲ舞

三段之舞之事

一初段ホソ二段ニ舞
二段目ソ三段ニ舞
三段所ソ四段ニ舞

右之通ニ舞ヲ拵同新大敷ヲ拵常ノ通ニ舞也
ケ別ニ右二品古来ヨリ有
観世流ニ有ー

又金剛ニ云
カリノ所ハ常ノ通前ヨリ二版目
二版目ニテ三版 三版目ニテ四版メ
(ト)通ニモ第也 併先ハ右ノ如ク四ト好ヨリ

染頭 段頭ノ頭ニ

イロエノ内ナカシヲケヲハナシ色ニノ地クリテ右

右染頭ハ後毋ノ書附頭一ツヲヘシ
首ハ五文字七文字書テ筆ノ染ムヲリ(ト)附ヲ
今ハ筆ニ染テ五文字七文字書テ又筆染(ト)附ヲ
(ト)附ヲヨシ

勝行

小敬ノ地ノ半ヲステ大半ノ間ヲ

二品也

右勝行ハシテ後毋ノ書ワキヘ波ス附勝ニテ
ニヒリヨルワキヘ波ス也名成ル故ヲ上ラレズ
地紙ヨリ行ナリニ留ル

松風 本銭常ノ銭ニ流ヒ(ト)頭モヲ

小敬ヲ松常ノ銭ニリヲリ後シ

二版右テ
(ト)別ノ人ニテモ
二ツ地ノ
ホチホ
(ト)附ヲヨシ
(ト)附ヲヨシ

三ツメ頭草ニヲ時

二ノ草ニヲ時

上ニテ

片男波 他流半返シト云由

おてハかるかゝるものゝ　ホホホいとよセテ　サアトヘ大次行

中ノ笛

我の車ハ月なのせそうたゝ　うも忍ハ夜

恋の為ぢ　ゆとしテフナト（ホン）　テ宛三物ゐ

小小ハ外ゝ　片地ゐニル　太ホーウ

七段真之物著仕舞

一段　太夫座ニテ右ノ次第ノ内アシライ二段ガカリホシク

二　一セイ仏家心也路ツレサバキ三段ニカル所シク

三　サレノムツケ四段ニカル所シク

四　九利上家ゐ也路シ組ノ結ブ五段ガカルシク

五　サレコヘノ内ヨボシャスル時六段ニカルシク

六　サレコトノ心也路也シ

七　段ウツリトシソロ〳〵家柳後位ニテ

ヨボシ以下アトニクサリツケヲ調

鳥帽子頭

右ノ七段真物著仕舞ヨボシ名ニテ女惜士

ヨボシ名テヨリ男惜士中綱言ノ秘有リ

三段川ト調出スヨリ狂乱ノクドキト云ニテノ調ソ

カルクチツヨシ真ニ中ヲ以クドキノ習也

ヨボシ以下云ハ右ノ物名ソサメテ女柳頭中家行

ミツセ川ト調出ス所ノ口ニギトハネマ云狂乱ノクドキト云

七段物著笛

ヒウラロイ　ヒウラヒウリウヒウイ　先近習

ヒウイヤラロイヒウヤフヒヤ　ソヒヤロヒヤルリウ

ヒヤウロイヤ　トシヒヤロウ　チヨウ

段名ノ二段ヨリ笛男出ス三段川ト調出ス近男会ゐ

右ノ物名ハ此笛ノ手ヲ吹六ノ下中吹合ヲ也

五段ノ物着ル時

一段左ノ袖　二段右ノ袖　三段　紋ヲ　四段ヲホシ

五段ニホシ

右五段ノ物着脱ヲ扱也

観世ハヲホシ名所ハ扱ヲ扱ハシ又テニホル時宝掛

金春ハニホル所ヲホシ紋ヲアトノリカケ二掛ケト諷

別位ヲホシ次ト云　二掛ケ男物ヲ用ノ女物ヲ

見留之事

●ヤ　エイ、ハヤ　エテ
●●●●●ヤ
△ー△・●ヤ　エテ
△●ヤホホイヤ●ヤ　松ヲ

右見留ハ破ノ第ノ上也破ノ第松ノ巴リ指掛ヘ
約ニテ柱ノ間ヘ約ノ所地紋ヲ指掛中程
ヨリ返約フリカヘリ扇ヲ左ニトリカヘス松ノ
見ル時ヲ上ル也　紋ヲヨシ

身留之事

●ヤ
●●●●一●ヤ
●●●ハヤ
△エテ　タタ●ヤ
ホホ●ヤリ
（以下六ケ条也）

右身留ハ破ノ第ノ上也松ノ巴ル時段一段有ヒ
常ノヲ上所ヘ来リ左右ヒニ別ス巴ル時右ノ
袖ニテ留ル又松ノ前ヘ約カリ端留テ折ノ至
ト云ル時留ル同前也ヲ合ヲ也

他流

地頭・●ヤ●ー●●ヤ●TT●TT●ホホ●ヤ　諷　先ハ幸流カ
タ

沼下儀　上ケヲ下儀　字性習ル

上テヤ●ム△ヤハー●ヤム　ロキ先
●ム●ヤヤハー●ヤム　ハア

小頭

上テヤ△ハヽ〇ナ〇ヤヤハヤヤヤハアヤハヤ
ハヤハヤアハアヤヤヤハヽヤハヽ
ツ〇タ△ヤリハヤ△ハアヤヤヤハヽヤ ヒキボミテモ小ノミツ吹ノ
ヤヤアハヤ△ナホヤ△ 乙ミツケテ
流布誠松風ノ通

右小頭流ハ江口ノ誠也

江口沓冠之一声之事

江口ノ一声ツ云ハ先ナ出シニ次第ノ位ツナテ作物舟ツ
出スト一セイニナシス誠ニ小頭流ツナリ縁有故也
沓冠ト云事ハ始次第ナリ後ニ又舟ニ謡ト次第ノ
位ニナシシナリ切前後次第ニナシス故沓冠ノ一声ト
云ナリ切テ上田各モヨシ

クリ頭七曜ニモナリ

上△
来世ろ紀来世 ヤハヤ△ヤホホツーケ

ツキ絶ハ流ノワヽケ出シニ以ナリ
先ハ流ワヽケ出シニ以不ナリ
揚幕之也モ此通

六根頭

ツーケ
えや告人ハ六ちんの垢よまらハ六根の罪
とかくる事もらうゝく事よそはふ心如へ

平調返シ有ハ此以ニツ声カケズ先平調ノ
知せ也笛モ平調ノシラセ吹ナリ
笛以ツカ

平調返シ九段吹極也

大シカケ 小シトリカケ
ヒヨウルリヤロルリ△ ヒヤラリヤラリヤラヒユイ△
ヒヨリリ△ ヒウヤヒウヒヤ△ フタワゝゝイヤヒユイ△ 小ヨセテ
ナカヘス タヤ
シヒヤロイ△ ヒウリウリヒヤロラ△ ヒヨラヽロ△
フホ
ヒウルリホウ ヤア 此以角ノ拍子ト云角ツ一ハイニ声モナガク掛テナナリ
ヒウヤラ ヒヤラ ステ以声後クナロ傳 コレニ當ル トロヒウヤ ヒウルイヒヤリウリ

平調ノ時ハ次ノ時ト云時、笛一ノサリ
平調ノ次席ニテ小敲ノトリカケ以テ大敲モ
モカケ頭合也笛モノユリノ前ニテ小敲ヨセテモ
其アトクサリテ大敲モ正テモナリ

平調越本名敲ノ拍子ト云 三返ノ習有

ハリホウ ハリホウ 越ノ拍子ト云
三返ノ習

越ノ拍子ヨリカシノ掛也 同断

笛ハ大小頭ノ次テ吹出スナリ 九ツ十二返有ル事
和合也 ヒヨラヒヤラロウラ ヒウヤシヒヤラ
シヒヤラトロウリ ヒウイヤ
カシノカヘリハ當リ拵ル笛ノ紙帛ノ筆ノ如シ
アトニテ有ルナリ

定家 上リ傳次第共ニ掛

上ル 上ル 二段目
初下ル各 二ツ頭

墓ノ離ルゝ事

此事をよく弟子の好ハヽ打て渡りもとをりん 口伝
ハイ口上ニモアラズ打又ニモナシ少シ心ニ墓ヲ
糸心有イロ上次ワキヨリ作リ初ノ前ニテ三拍子ト
ヒ掛ニテ作ヲシテヘヘヒリ作ヲ向合掌
入ル少ヒテ打カケ

ヤハ ヤハ ヤハ
ヒラレ放ヨリ
ヒラ掛以ニシロシテモ

本ノ手　キリ　関寺小町　キリ　同断

後の心をまでもおもひ　何ハまゝ

陰ノ囃子之事

定家　檜垣　二番ハ陰ノ拍子ト云出入陰ノ出羽ナリ右之作物ヘ入ハ墓ノ内ナリ入ハ陰之ゆめうつゝとよト謡出モ陰音節モ陰ナリ

檜垣モ同断

ノラズ示心ナリ　乙ヒ云諷

若身ノ頭ト云

是ヨリノル

ていかかつらよ身をこうりまてかゝる事

五輪砕

皆うるおひて草木国土悉つかい成仏の　妙法　蓮花　経

袖神楽

ま舞姫の小忌衣

おもしろの舞ひの有様やな

コノ間不ナ心ニテシサヘテ以テノ　此留ノ所ニ級解ト云　コノアト乙ノ通

袖神楽小鼓ガシナ大鼓ハ小ニツキ會釈無別段

石塔ノ囃子

常ノ通頭乙テシロヒ有テ

ヒウルイ。ヒヤリウリ　ヒイリ。ホウホウホウホウホウヒイ

下御り火宅前

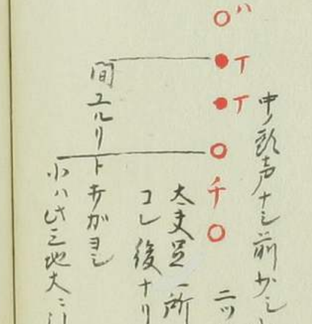
ふるんとまる車よおりて火宅の
門をやいてぬるん火宅

まる車ようちのりて火宅のかどをや
いてぬるん火宅

幸流行地ナレドモ山通ニ歩ナリ筍ニ合

芭蕉二童ズバリ

一セイニテ出在ノ内ヘ入ラシ引附ケノアトニテ
別ニ歩山姥ノ小玉頭ト同



同歩上

庭のりを山ふけのうそ

芭蕉 百方 山姥 三番ノ上
下御りニ歩也 上御りハカヨフレナガシ上ヘニカヨ
上下ヒ歩モヨシ

楊貴妃 金之間

浮世ものまこりや
ここのうてるよりや別まの
ふるそうそそそまり

宋女 弓根引

ぜ山よ行路へハ 絶
響のう根ち

同誘頭

山ほととぎす　（伊ヤアトセ）
（ハスキサシコヘナシ　ホクネカホドニ）

鶉躍小町　一番ノ舩習ナリ　各ノ字

一セイ小敲ヨリ方位靜ニ前ニ出ル　真ノ一セイノ如ク
一段トルモ半越ナテ支出指掛ニテ休足スル
時ニシイテノラズニ乞合ツケノル

（ヤハヤ　スグニ行笛ニ合テマエナリ）
（間イキゴミナリ）

末獄　高砂家習ノ手

いくの大夫ひろつの名をたもちやそじも　（ヨセ　ホホントリ）
（ヒニノ外ツケノアトノ次ひと節ルヨク打）
（切）

同舩ノ序　左云

常ノ通五クサリ也入交テ打
舩ニカモアリ常ト序ニテカイハ頭ヨリ
ツケテカル八ノ声ツメテニテカシ後ノハノ
声大ニカケテ頭合コノテカヒアリ
二人靜ノ序同断　二人靜ハ長キ序
（トテクロシ返カツメル）

トリノ序

シヒヤリルロ　ヒウヤアヒヤテ十日　ヒシヤ
右トリノ序末獄一番ナリ一唱ノ方有ル
小笛ノ方ニテク序ノカズ常ノ如シ
カル所ニカナリ

舩ノ序　末獄　二人靜　羽女

常ノハノ声ソトス心皆前ニカケテツキ出スル心

御ルより第初段ノ頭一ツ半より老人ノ
ヤ拍二段目ニテ三段目ニテモ支休右下ニ
居モアリ立ナカラ休モアリ示心モアリ又シ
ワク二段ニテ三段ニテモ休アラバ能ノサシ合
又合也休長クハシキテヤ
●ツ●テ●エイ○ヤ●ハ●ハッ●テ●ハ○ヤ・ハキサミツケ
初段手次時大アレライ

觸

金剛ノ
ワキ名乗ナレニクシ上ケ幕ノ方より思ひ入心ヲト
謡ノ歩ニ出ル也有

タをりうを朝ぁとの あさことの
いあッケテウタフ

同笏之事

一指ようよう柱第の袖太コ次より竹ノイロ次
ゐ敵ノ頭所大敵ト小敵トモニヤ切小敵ハ
大敵ノ次ヨリスグニ流ニヤ約也支即ニ太コ次ヨリ

笛カヽリ本第ニナルヨリ太コヤ也テ
ヒヤウラウラウラ
第急ノ舞ナリイ
静ノリテヤナリ ララモリイリ

一ニテ指掛リ〈クロキ肩ノヒラキ手ニ又上テ行モ
首又指掛〈不行ブタイノ角一返一遍也リ太コ
前〈来リ小也リニテ即ち也支時太コヤ也
第ニカヽル太コ流ニヤモ有小敵ノ流ニテ指掛〈
行ニテ肩ノヒラク袖ノ指掛〈クワロク
ニテ指掛ヨリブタイノ方〈フリカ〈ル時小敵
地ナシニヤ行小敵ノ流ノ内大敵ノ次ノタクサン
ヤ又小敵ト一所ニナルモヤリサ和ニテ
指掛ヨリフリカ〈ル時太コ次ニ頭ヨリ
ナガシ行太コノ流ニテブタイ〈入ニテブタイ〈入テ両袖ノ
スグニヤめ)リ 流ノ内ヨリ

一左又笏ノ第ノ時ニテノ出遣アリ出羽ニシタテ
スベシニテ笏ノ笏ノ如ク指出ス云合ナキトテモ

扇ノ筋ノ如リ拍子ルナラバ筋ノ舞トミルベシ
是外筋ノ舞ノ知セナリ

一 筋ノ舞ノ時ハ待謡ノ在もきうくどト謡時ワキ
幕キハシ見ルと時獅子ノ如ク幕ガシ上ケ太夫
コレラヘ掛リ居シニ入ル太夫足ソソロ丑筋シ拍イル
うけうりく拍舞の袖ト太夫足拍子フムノち
時太コ次キノ大小トモアシラウ地ヘシ白シ三クサリメ
又足拍子フム同太コ次キ右之通ニ所ニテ足
拍子アリ太コも次キノ太夫ブタイノ中程ニテ卧ス
手時太コ半キ也ニテ舞ニナル乞舞ニ段ノモノく
シロヒナシ道成寺ノ如クニ吹太コ今春ハ足拍
子ノトキ

テンテンテンテンツテンテントキ　尤吉流ハ四ツキザミト云ノ

同遊曲之舞

一 清ううくト笛イロ丑吹太夫橋掛ヘクツロキ
扇冠キ袖ツ抱行小鼓流ニ太コ流ニキモアリ
太夫ブタイヘ入卧ス時太コ次キ舞ニナル
五段ノ舞也

百万　二佛頭

中ハおそき道おれとも　二佛の中間

同　キ上

上テミツメムル
南無あうみ姥と心あう人も逆縁ありう
ちうひよありきてたらせ給へ

右三番ノキ上　キ万遠フ

真ノ序

教　十三　十一　九　七　草也　紅梅天女真ノ序ツ
舞時ハ五ツ尺用ル

一 源氏ノ拍子ハ剛クキノ　男将士也
平家ノ拍子ハ柔ニキノ　女将士也

神樂 右能

三輪 龍田 巻絵 繪馬 室君
仲等 石凝 現立七面

神ホシ留ル八序ノ舞神ホ習ル

鐘巻次第 一声ノ事

脇幕シテ出テ鐘トムル正面ヲ見ル余脇有之
ヲ吋心ソ分テ可ヤ

鐘巻又次第 一声ノ事

李絶ヲメバシ住ス住成モノニ非ス大口傳
座主 法印 住僧 大口 著僧 平僧
常ノ僧也コレソ ウツソ僧トモ

力動 再動

力動ハ現ノ男ロツフサギタル面也 ツラリト剛ノ方
再動ハ過去ロツアキタル面也 仁ヒカ
細ニウツキリトヤ
位ハヤシ

龍ノ段 呂中律 ヤ切ノ多一反一挟

呂 初 シヒヤラホウ〳〵ヒ ●ハ
中 二 シヒヤイヒヨイヒヤリウリ ●ハ
律 三 リウルイヒヤリウリ ●ハ

岡柄 五帝ノ年

ヌヒノモトノ 下リ羽ニテ中入也
天女下リハ三段 下リハ五段第ノ云
地ハナシ

楊貴妃

昭君ハ遠ク有位カルク剛ノ 唐冠着衣
釵ノ事ヒシヒ草飾彩色ナリ

序ノ舞 初段ノ頭

花人花女ハ定ル事モ ●ハ ○ヤ ○ヤ ●ハア
即宮定家 楊貴妃ノ ●ハア ○ヤ ○ヤ ●ハア ●ハ
ワキ能真ノニセイ前ノ ●ハア ○ヤ ○ヤ ●ハ
ダ裏ノ次ナリ

土車　廿切内狂言云事

此法度の所まて柏なりけるまじく
（おこふうや　所通りく）

狂言四家有口伝　狂言師廿切ノ内右ノ通
云納ル太夫謡出ス事

土車ノコト工羽ノ前ニ狂言セリフ有コレハ
寛永六年八月廿四日大蔵弥右衛門九良兵衛
方ヘ遣スニハナヒノ上九良兵衛ヶ様ノ事ヤ有
リシトテ問ハレトキ弥右衛門申サル　然モ其間ニ
廿事ナリ

右日楽ノ書留

上カケノ
此度はうらめ大君の御かけの國ぶりの御代より
せりもふかう　おとさら蔭の信
の後や末葉の

廿切ノ内ニ狂言右ノ通答アト太夫謡出ス
此所まてハ柏なりけりふく通り也　丘

雲雀山　廿上

上テタム
雲雀山こや谷たまよらん　いまや谷らん
いまや谷らん
此通ニモ

次身体足舞体足

シテ出テ橋掛中ニテ体足シトスル心ニテ謡色合
舞モ同　舞ハ二段カ三段カ心ニテ太夫次第
色合体足　老人　老女

放下僧ノカハリ

こきりこの二つの竹の世々をかさねて廿
おさまりたる御代かな

白善界之事

常ノ通ニ大ベシニ打殴ノ所ニテ大コケヒキ落
位静ニナルヲ時幕上ル 石支出ル

勅言預寺

大コ 合掌ノ留有 一クサリ廻ル

項羽 呂敖登附

呂敖登ハ ヨヘシハシリ
ツイ下 ヨリ 出ツル

コス コサヌノ謂

ま掛ト舞庵ニ立留テ謡ヲ幸一右ヨリ
定リ有掛ノ所ニ打シ徳ル 席敖急ノ
心ヲ以テ天地人ノ理ヲ ヲラハシ 掛リノ松
風ノ伝 要ノ松ト是ヲ号ス 奥ヲ名所有

九三

モトノ松 中ノ松 末ノ松ト云テ有 遠クヨリ
是ヲ見レバ松ノ上ノ波ノコスヤウニ見ユル故ノ
ナニニカタトリコストコサヌト古来ヨリ例
有ヘシ 一ツ一声ト云事ハソノ古ヘ
事ノイニヤウトテ 時ヨリ始ル一声ノ
例ノ如テ世阿弥イヨ〳〵今ノ能ノ出羽法
度ノ定メ是ヲ打

石車 シトシ

会佛ト教ヲウケ 神祇ヲウケ
ツイ ホ カ ヤ ヒ

右ノトシ習ナリ 謡一ハイニシトスナリ
幸敬楽小町同新古松笛野ヨリ
卯ニナシ謡ヨキ名ヲ支ナラバサヘシト謡ヘドモ
ヲカ能ク工夫スベシ

灌頂灌油之事

灌頂ハ腸能ヶ灌油ハ祝言ヲ云灌油ハ
三段ノ法アリ本式ハ初頭上暑中略
出頭ヶ諺ヶ三段ノ法有ノ時草ノ諺
頭ヵヶ沢有ノ時ヶ約ヲセリ有ヨリ南ノ
諺後ノ出羽ニテ出ル則灌油ノ事ヲ
腸出ヨホラ烏帽子ヲシ赤袍勧進能
四日メ五日メ山姥海人磯通ヶ能照能ニ
有之ハ石三段ノ法有ヶリ

一七九拍子ハ神楽ヶリ下ル拍子ハ楽ヶリ

七曜之事

七曜ハ日月五星加ヘテ七曜トス

歳星木　熒惑星火
辰星水　鎮星土　大白星金

流頭　二十八宿方

角亢氐房心尾箕　東南
斗牛女虚危室壁　東北
奎婁胃昴畢觜參　西北
井鬼柳星張翼軫　西南

阿漕　イロヒ

イロヒノ内ニ奥ノ退仕舞アリ太コ大小刀
多ノ不打也舞處ハ入手ノ打ヶ退見ニ
太コ位サラリトツケ乞合諺細ニシロス
返ハ双多クアニシロニテハ地斗刀打ヵホルヶリ

竹生嶋ノ一セイ

常静ナルコヒヶリ真ノ越ウタズ

七騎落

斤越ナリ 頸越ニモ入ル 急ク心ナリ

左クリ ノラズ乞合 太夫クリ 右クリ

同音 打カケ 別カケ

左ニ附序ニテヨリ諷乞合

右ニ附序 同音訊ツヾクル之

左サシワキノ諷サシ之 忠則ノサシ

十ケ序

平調返シ 律掛リ 三足半 遊女序

段ノ序 旋序ニ 乱序 序ノ序 左ニ分序

右ニ分序 長序

序用 序ニ白シ 二ツ乞合云

序ノ序 序シロサズイテ 一ツサリ序サツ云 何ノ序ノ第ニモサス之

拍子之事

取拍子ハ四拍子 斤地 六拍子 本地 八拍子

シリ 十拍子 四ツ地 正ヲスル口伝

次第 曲 サシ 一声 サシコト 章節

將士

左右前後ノ拍子 口傳

鞍馬天狗 木ノツケ

見る人もなきやま路との櫻かな

雲林院 枝ツケ

ええええをサむハまえ春のこめ 觀世

ええええをサむハまえ春のこめ 寶生

ええええをかむハまえ春のこめ 樋口

三番ノ後ニ修羅 弓威 朝長 道成

出ハ太コ一声ニ有ベシ地ノ所ニテ鴻門ト
太コキザミツケ次有ベシモシ太コ次ハ
大鼓キザミツメ地ノ次ニツウツベキナリ
太コ次有ニハ大小モ次アシライ有ベキナリ

朝長

[illegible]

景清 大口ニシ

[illegible]

太夫始メ三人ハ不出ニテ地
四番外ナリ

清経還幸頭

[illegible]

忠則 言伝頭

[illegible]

上掛リハ本地下掛ハ頭地 下ハ同地ニ
笛モ下ゲキト地ニ次第ナリ

同一声

錦木 ムコノ柏子

[illegible]

三輪　上幣　下解子

龍田　上下尼幣

龍田今春幣神樂二段也三段律ヨテ幣ステルト笋ナル拍子三段トリテソロシ金剛夫ヨリ小七夫神樂二段トリテ律ニテ幣スル笋ナルヲ後段ナシニソロシテアト地次四段今春同前徹世夫三輪同前

白拍子

白伽右　三輪ハ神樂ノ所ニテカケリ十ド如ノ成物ノ社若ハ序華ノ所ニテ白ハヤシ斗ニテ謡出スモアリ華ニナリテ謡出スモアリ

三輪次第

初段上畧　二段切頌ニテナモ

ヤ●ヤハヤ●ヘハヤ○○○ツ●テ●テヤリ　ツケヨセ

ワケ

右真ノ次第ナ拍三番目荀ノ能ハナリ

道成寺ニハウタヌ草ナヨシレト有

落次第

三輪　鄙宮　井筒　平都婆小町ノ段　右ノ通ナリ

ヤハヤハ丁ラトスム　ヤ●ホヤ●ハヤ●ホ●シン　ハシヤ心ヲケテ拡ノ次ナ　アヲナ　謡　イキヨノシン心有真ナリ

●ヤ　ハ●ヤ　○テテ●ヤ　○○ノユレヌナ　●ハシン

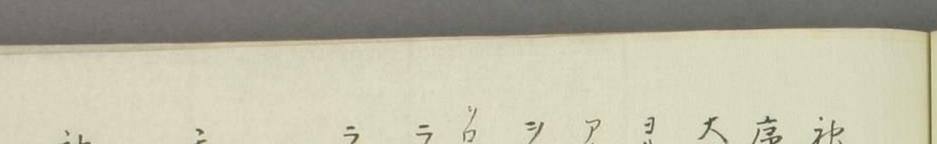
本下畧ナ拍治ノハシ掛ルナリ同断ナレ尼

治ノ声掛ヤウカハリ右本下畧ハニブ節スガヨシ

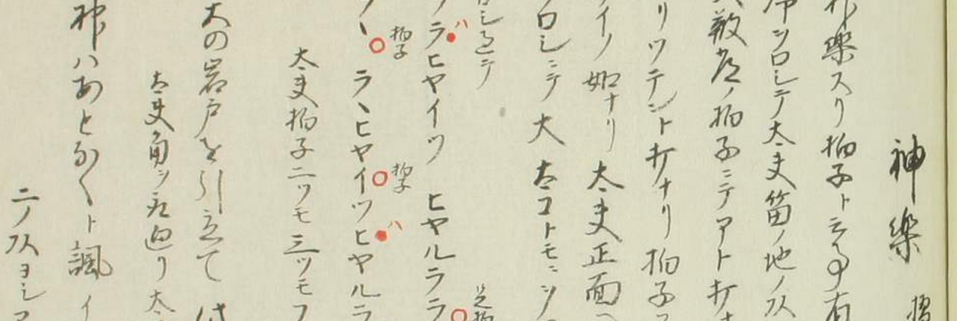
本ヲ足ノ留ヲ打ガヨシ本下畧草ノ下略

落ス次第ナ切ノ下ノ畧スルシ云

歩切

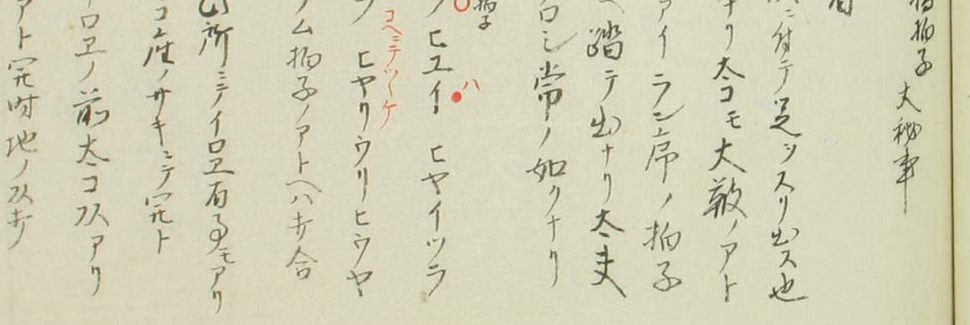


末ノ能ク此歩切曲奉ノ出ル事アリ
常ノ歩切ノ同ナリ



此通ニモ歩也前ノ歩切多ク此所ニテ歩也

三輪　太敲歩出ル事



常ノ如謡出ス多ク亜ニ次ナリ真草ノ歩拍

神樂　指物ル大物事有

神樂入リ拍子トモ有序ヲ以テ太夫笛ノ地ノ次ニ分テ足ヲ入リ出ス也
大敲ノ拍子ニテアト歩ナリ太コモ大敲ノアトヨリツテント歩ナリ拍子ノアイラン序ノ拍子アイノ如ナリ太夫正面ヘ踏テ出ナリ太夫シロシテ大ナコトモニソロシ常ノ如クナリ

太夫拍子ニツモ三ツモフム拍子ノアト八ツ合

太夫ノ岩戸ヲ引テ出ル所ニテイロヒ石ヲ入リ
太夫角ヲ廻リ太コ座ノサキニテ完ト
神ハあとろくト謡イロヒノ前太コ次アリ
ニテ次ヨリアト完ト地ノ次歩
アトノ次ヨリ謡ガヨシ

海人　三ツ割返し

下掛り
うち藻るもとたらちめの為と思へハ
いさりする（ヤリ　テホ）日数経りて

真ノ一拍子

かくても爰ふ須川の（汀地ノ音ヘ）かくても
志津まるやかくてけるの花すや　諷
かゝりけるの花すや　詠

此次口傳アリ　イキ込ミヤント有

右ハ此海士ニカギラズ末ノ能ニコノヤウナル所ニテ有

水鳥頭

ほそらていりや弘るの沖の（ヒカヘ）
船来まよ君ゆかふひ　若鶯　思日次
右之処ニ此次ヨレド　好者も中サル

海士人の中ふ出よ　此業
此方の母海人ひとの中ふ出よ　此業
右海人ノ筆立又斤有仕形云　観世家ノ書也

二段返し　海士　當麻

宗右衛門流有抑し太コ次五ツ鉞前有之次三ツ鉞ノ
アト次ニツ
左吉　又右衛門ニハ　七五三有ノ

天　ツ　天
大ヤ
毛ハ鉞ノアト有之ヘ左吉チカウ
ヤリ　ハア　エイ　ヤ　エイ　ヤ
ハ　ヤ　次　ハ　ハ　ヤ　ハ　イヤ　ヤ　ハ　ヤ　ハ　イヤ　ハ
ヤ　リ　ハ　ヤ　イヤ　エイ　ヤ　次一ツ　ハ　ヤ　ハ　ハ　ヤア　ハ
ヤ　ハ　ヤ　ハ　ハ　ヤ　ハ　アトツヽケ

太コ次一ツニテモ

宗右衛門方ニハ
次有コヘ大ウケテ舎人観世ニハ走ニシロス　宗右衛門
方ニハアト次一ツ有アルライ可有ニテノ二ヤウリハンノ
鉞ナリ　二段返シワキヘノシヤウクハン二有　此脇ハ二る家
夜ニ有ナリ　口傳　右之通観世ニハ有出次七ツ鉞前へ

打返入五ツ越ノアト打返返ニ二段返シアト入三ツ
打シロス金春ニハ打出シ入五ツ越前打返入三ツ
越ノアト入二ツ二段返シ入スグニシロス

融 當麻 海人ノ越

舞ノカヽリ頭数多シ

シテ大臣へ経渡ス所ニテ太コ入壹テ打大入二ツヨシ
小シドリ二ツ

二段返太コ附

右頭付ハ今春宗家右衛門流ナリ左吉方モ
別ニ違無之候右ヶ觀世方ニハ無之
返ニ手ツケテアト入也

懐中ノ笛 従笛云

常ハ従ツ大臣へ渡シテ常ノ舞出シ所ヘ来テ
シホルトキ笛ニカヽル懐中ノ笛ノ時ハ従ツシテ
懐中スル後ニ大臣へ従ツ渡ス舞ノアト打返
打返サズ返ニ謡又従ツモチ従ニテ舞アリ
笛カリ無之スグニ舞也打返シテスグニ舞ナリ
懐中シテシホルスグニ舞之

幸流

●ヤ △ハ、○チ○
○-○-○ヤアハ ○-○ヤア ハ・-●ヤ ●タ△チ○ハ ●ヤ△
ハ・ヤ ●-●ハハ エイ ● ・ヤ ●ハ ●ハ ●ヤ ●ハ ●ヤ △ヤア
ホホ ホホホ ホホホ ホホフホ ホ、、、タホ、ハ△
ハヤ ●△

●ヤ ●ヤ ●ヤ ●ヤ ●ヤ ●ハ ●-●-●-●ヤア-●-●ハ-●ヤ ○ハ○-○-○ヤ○-○ハ
●ヤ ●ヤ ●ヤ ●ヤリ
ヤタ ヤタ ヤタ タ

此通リニモ有
●ヤリ ハ、イヤ ○タ△ヤ○○●ヤ△

大鼓流ト八返ナリ

此ノ次前ノ次ニ引続テ有之スゾニ

鉦ノ段

合頭 三ツ地 ○ ・-・ヤ-○-○ハ-○-○ヤク ・-・-・-・ヤリ ○-○ヤリ

●-●ハ-●ヤア ○-○ハ ○ヤ ○ハ ●ヤ ○ハ ●ヤ

位ハヤシ
イヤ△ イヤ△ △ハ △ヤア タメ△-△ △イヤ ○ ○ハ ○ イヤ ○ ○ イヤ ○-○-○ イヤ 大ノ次

半流 幸流

○-○-○-○ハ-○ア △ イエイ ヤ○ ハ○ 合ノ次

此後位モトノ如

同小鼓ノ手組

○フ○ フ○○ フ○○○ヤ○○○○ タータ
ヤ タタ タタ○-○-○○ ○ フ○ ○-○-○ ○ アト地ノ次

右翔替リナリ物狂ノ拍子キカケリニヨミ
笛ニ合ハ味ニテ可有

大返 本名四遍返ト云
打ちや四遍返セバ合ナリ

南無阿弥陀仏 シトス
●ハ ハ、ヤ ●ハ ハ ●-●-●-●-●-●
●ヤ ●ハハ ヤハ ●ハリ ●ヤ △ ●ヤ ●ハハ ヤ
打ちや
打ちや

幸流ヨリ一ツ手ヲ旋シ

花筐 柏崎 高砂 雲林院
此四番也
余流ハ祭ノ手組返

葛野流小鼓手組

ホチホハ
タエイ タヤ○ー○ ツタフホホホホ
ニツスリ地

ツタフ○○○○
打ちや
のもしや

本手流

右ノ本流ハ物狂ニ非ス地謡ヲ専ラ謡ヒ舞ヲ主トシ序ノ舞ヲ略シ序ノ所ニテカケリ地ヲ謡ヒ序ノ次ヨリ破ノ次ヘコレヲ引分ケ破ノ次ヨリ破ヘコレヲ引分ケ破ノ次ヨリ破ヘ急進能ナド破ヲ謡ヒキ物狂ノ後有ハ其モヨシ

羽翔頭之事 替リ

右翔替リナリ物狂ノ後ヲキカケリヨシ笛ニ合ヲ嫌ニテ可ナリ

大迫 本名四遍迫ニ云 或ハ四遍迫ヲバ合ナリ

南無阿弥陀仏 ハヤ

菖蒲小敷ノ手組

菖蒲古今ノ手組

花筐 狐会 多迫 雲雀山 此四番也 本流ハ第二手組迫

本流 長し

大倉流 當北条ニ合ヘリ

西流大敵

清水 乃湖ニ有

右當節大ニ合ヘリ

笹ノ拍子 二品有

三井寺 金剛延し

右ニ車 三井寺二番ノ乃ニ鐘アリヌヨシ

百八箏用 并小町箏用 別紙ニ有

本流 長し

おとしや　○○○○
タフ○○エイタヤタハタヤ・タフ○○○フ
○○○フ○○○フ○○エイタヤタタフ○○○○
一おとしや

大倉流 高砂表ニ合ナリ

おとしや　○○○○
タフホホエイタタタ・タフ○○○○○ヤ
タタヤフホホ○○
たのもしや

高安流大鼓

おとしや
ヤホホたのもしや

幸流小鼓 半返し

大次
おとしや　○○○○
タヤフ○○エイタタタ・タヤフ○○○○○ヤ
タタヤフホ○○○
おとしや

右高砂大臣ニ合ナリ

笹ノ拍子 二品有

萬歳楽いさやァさん千秋楽ついいさやァさん
千秋楽いさやァさん萬歳楽いさやァさん

三井寺 金剛返し

枯たる木よたなも　木またなも
入あひハ　寂滅為楽とひゞきてかたい
の後乃〻〇の〻忘月も数そひて百八
ほんなふの霧ふり乃おとろく　ゆめのよれ

右左車　三井寺二番ノ後之鐘ヲアシラス也

百八筭用　并小町筭用
別紙ニ有

明六ツヨリ七ツ迄ノ時数三十九夜同二十九
合テ七十八ノ所ヘ一ケ月日ノ数三十日加テ百八
ナリカドノ数ノ段コノ所ニテ留有

クリニ掛ル拍子

詠めありて帰らん ト太夫正面ヘかしかしかし太小ノラズ フケテ二ツ打

山寺の 山ノヤアニアタルヤノ字ノ アトヘ留ルヒニクノ有之

支長来の

一角田川 鳥追 唐船 此ら一声ニ流シツ 打ヌナリ

一竹生島 脇能ナレ圧 鉄常ナリ シツメ段ナシ

角田川 実寺ト二番ノ留ナリ

草ぼうぼうとしてたゞしるしのあさぢかう
原となるこそ哀れなれ哀れなれ 留ニ段ナシ

シカケ 二品アリ
念仏ノ内ニテ鐘打ニアタラヌヤウニ大小打ガヨシ
念仏済打所声ノカケズ念釈ガヨシ

遊女之舞

上ゲ ヒヤリヤヒヨイ ヒヨリリ

舞五クサリ同コトナレバハナヤカニ打 遊女ノ舞ナレ
打エボシ着ル舞ハミナ同断 声ツキ出ルカケル之
右班女 二人静 仏原 祇王 舟弁慶
木賊 此通打バ能ノ舞ト心ゼテ打ナリ カケテカルク大数モ大ニカクル

班女 裳衣ノ段

あふぎうらおもて有物は
かはらぬのありさまよりあふぎうらおもて

山姫

同

削り頭

同 初上

山姫シワキ能之ル時

善知鳥

迫落シ口伝

翁以下シカケリ方ノ如ク地謡不揃ニ立ツ中ノ
内中上ル笠ヲ迎リ内ニ時地以脇座ノ方ヘ向
中上ルニアリ又鏡冠ヲ取リバイト云ハ笠ノ紐
立留リコシカケムルトキ中上モアリ

右習ヒ

地以 ロ伝 太夫狗子

安宅 ヨロク 舟

まろくとしてあゆこたまふ ヒカヘ

同下畧

人もなし ハリシヤムシ 安よ中比

翁掛リ 笈掛リヒラキ 地以

ちゐハ瀧の水 上

右延年ノ掛ハ男舞ノカリヤリ大小

六以合テ十二ナリ 十二同級ノ笛ノ以下
トキンノヒダモナシ十二也 堂六ノ頭ニ云

延年舞 地以

二段目

ヒヤヒヤリ ヒヤヒヨリ ヒヤリウリ
ヒヤヒヤラホホヒ ヒヤイヒヤラロ
ヒヨラアラウヒウルイ ヒヤリウリ
シヒヤラホヽヒッケ

笛吹松

笛吹松

ソヒヤライ　ヒヨウラ　ヒヒウリウリ

ヒヤラヒヤウラ　フヒヤウラウラ　ラ、リリリ

ヒヤヒヒヨイヒヤリウリ

第二段目三段目ノシロシアトニテ有之ゆえ
右之処ハ切ノ手ハ出立仕舞遠ヨリ
出立クハラシ掛両袖タスキヨリ数隊シ
右ヘ五ツ左ヘ四ツシロヘ手ノ内ニ笛ヲ
持ヲ踏大敵以下ヲ時小敵以指テ笛ヲ
香立吹ゴトリ足拍子踏ト地ナシスアシト
云ギリ也西宅方ノ掛リノ時ハ箱掛リヲベシ
箱掛リ手ハ切ノ手ヨリ流シテヨシ延年三段
ヲ有時ハ二段ニシロシナシ

定年ノ舞　小敵ヲ抓

タヽハ〇〇〇　タヽ〇〇〇

幸松原小町　次男ノ留

ニテ指掛リ一松ノ次ヲ笹ノ手略右ノ通ブタイニテモ

小町　シヨトシヨトヨト云

宗貞袖よ静るり袖ふるる　コレハ半シヨトシ　長ニテシヨトス

ハシヨトシヨ手ハそとは小町ヲアラズトナリ
右ヨリ地流ハ笑ヲ数ヲ習

同物著　下カヽリ

太コ産ヘ行著ニテ立出シヲ見テ

ノリツ〳〵ケーツ〇〇△●

写ヲハありとも祖

八坂頭

浄衣のもりまかいろうて　イロエ

1ロエ　此頭六通ノ表ニタル処ニ大敲ノ二ツ小敲ノ一ツ笛モニツユリ有ホウホウホウユリノ如クニルナリ

二人静　遊女扇

笛ノ扉ノシロシ返ノ打ツメル右ノ枝六リ外ノ遊女ノ扇モハ二人ノ舞改ノ名ノ打ツリ外ノ遊女ノ扇ユクサリ同ヲ色花ヤカニテ遊女ノ舞ニテユホニキル処ノ扉ハ皆同前故ツキヲシカクル

二人静　班女

船ヲ表ス

佛原　祖母

二人静　舞ノ事

舞心持ニテトツレト拵ノ打ツ大小共ニ

第ノ三段ハ段ノアラズニテトツレト行遠時三段目トルナリサテニテツレト可離ツレシニテト可心持ヲ細ハ業揃女ニ静ノツキタルナリニテハ陰ナレハ日ニ向面白心ナリ

扇ノ扉トハ二人静ノヤウニ六ツ打ツメル頭打ツ云イヅレノ扉ニモ有ルヲナリ笛ヲ吹ニテアト扉ヲ吹故ナリ大小ヲ合ニテアレラウ

大ユヘナシ
ヤリ
イユヘナシ
ヒテ拵ヲ
コヘナシ
もおもひこそはいまも
上同
習ナリ

遊行柳　相ノ型

清水流ノ柳ノ
ハヤ
ヘ
略ス心
ハヤハーヤ
ヘ
ソン
清水流

下略云ん

清水流るゝ御かけ ハ●ヤヘハヤハ丶●ヤヘハア△○ヤア チ○ハシン訓

めひチヌレテチモアリ

清る流るゝ御かけ ハ●ヤヘハヤハ丶●ヤハシンヤチ○ハハ訓

右ノ次ハウタノアイニチエヘ相ノ次ト云ナリ

同音可ん様のナリ

葵上 鉄念ノ頭 袖ノ下 下下尺

タタタフ○フ○フ○ △ヤヤヤ△ヤヤヤハヤハ乞訓

右鉄念ノ次ハ九字護身法次也祈祷次ナリ

此所ニテワキニ袖ノ下ト云習有

誓願寺 三字掛 山間ノ出羽尺云

悲雲たなひく夕日影 太コ次一ツ 位シチヘテ

山路三字掛ノチ出シ尺云 謡三字掛テチ出ス也

夕日影 ●ツ●天●天

太コ六ケ数次ナリ

来迎拍子

ヤリナ●ア○ 竜子まるゝふうさゆ流雲のよそれや 斤松○○○●ヤ○ヤ○テ○

●天ハ 紫尾来迎の薩回の 太拍子 ●ヤ●ツア 声チヽ ク二休ル

左拍子 左拍子

此切ノ留ニ合掌ノ留アリ一ク切リ延ル

杜鄭 五段ノ次第アル

初段本次 上テ●ヤヘハヤハ丶●ヤヘ△ヤハ丶●ヤヘ

二段上略 上テヤ●ヤヘ△ヤハ丶●ヤヘ

三段中略 上テヤ●ハヤハ丶●ヤヘハ ○ヤリ○○○

出次之 ●ツテ●テ●テヤリハ丶ヒョリヨセツヽケ

四段ニテ出テ橋掛リ中程ニテ踏留ル上テ七星ノ次

上テヤハ丶●ヤヘ●ハ●ヤハ●ハ●ヤ△●ヤ●ハハ●ヤ●ハヤハ●ツヽケ

五段舞台へ入テ大小向テ上ル草ノ謡次チノ

上テヤハ丶●ヤヘ●ヤハハ●ヤハシンヤハ丶

謡次第三遍 三遍ノ留名ノ通

大秘事ノ神伝歌ニ底深ノ可キ
ニテカラカサノ抽出ノ右留ノ國ハ常ノ
雨降故也

草ノ十切 考

只今やうにん（と名ノ
取敢の机よりよろ

真ノライ序流 セツニモ九ツニモ

テヨリスグニ十
九ツノ十出ニハテン十五ノ
アレライノ留ヨリヤト云ク
十出ス

外ノ紙ニノライ序ニモ十リ

ワキ中コウニテノ意ノ下産ニナシ大臣ノ意ノ下ニ出
指揮リ終キ時ハホヤヘモ入ニ流十ハワキ意ノ
ハヌ産ストキ大臣ノ意ノ流ヲスムト幕上ケ
出ル可ナリ

不審留十教考

誤

小節遠 声刈 教下信

小教アレライ初名ルヲナレアトノ乙一ツアニスキニ
シヒヤラホホヒ。スグニ三ツ地アイ方ノ節遠ニ

小節遠誤 ひ十教本ノ名称ニ合ニ

大節遠誤

ハ合ノアリ 三ツ地

天敵 切六ツ頭

地ヨリノ外
君も此ろ心持のほろこらすハ六ツのちま
たの夢よまろかりてうつくゆめう
まろかりてうつくゆめまろ〳〵と
うつりよろれ

宗貞九帝与治作外十首

花筐 教ノ頭

さくよまろ〳〵とて九行燈のうちに
〳〵て反堀香をたきまして

鉢木敏 二段返

ヒウリウ
ヨリ早笛物也ス

鐘ノキサシ木
行脚一杖ニテ半上ル子有見合

和布刈 ノ次第

照君 キ切口伝

シカケテモ
キまも思君ハるふかくエイ
門のおほえろうりヤ
行キ切ノ内ニ後ノ焼物出ル面也ニ

正当 返出シ笛

小原御幸

ワ
あいまもりうる大事やせまうの望乃かそ
みちおほろの清水月ヨル
ナミ笛ルニツレシトス心
本元院作ク

鄙守 留

大地をのつもとふるゝ（四段メ）

やふつくろくの座をうつ

ニテ年長ノ中ヘ出テ会堂ノ時ノ留ノ名指ノ留ト同ジ

留去現立難ある事

留去　不案一声ニ納

現立　案一声ニ納

サレ共ニテ出ル一セイ不納作り物出ル能ハ能タリトモ作り物出ル能ハ不納ヲトヒ服能タリトモ

現立ナラバ納テモサシ声ナリ尤可納

下器之事

鄙ノ宮の奏のこゝろ（ヘハヘハ〳〵ヘ〳〵ハ諺）

右曽我ノ能ニ限リ目ヤニテ一人謡所ニテ打

謡ヒノハノ声カクル心モテ一可有也

法會ノ舞之事

懐裏ニテ御祝儀御能ノ時御権頭方

舞トキ打ノ也小鼓トヒ合テ打大小習ヒト

ぬる名をヒヤサル

名脇 不名脇

江口の里ふ名よりく（ヤヤヤヤ）

旅まそのとけ（ヤヤヤエイ）

ひまそのとけ（ヤヤヤエイ）

ひるん（ヤヤヤヤ）

拾頂

いつと張るひそや（テロテテ）

習不打ハ上ヲ地ニ付ケ（キサヽ分ケテ）

ハア先生と（テテテ）

ヒ間カタん（テテテ）

ヒ間位ノホトシテ打

本流ハ三世十方ノ仏前

同曲舞

ほろのかけるかくらかへ
けさの内ノ仏ニツ心持ユウニシツカリトカガヨシ
六カシキ手ガテンニ仕ベシ謡モガテンイタシユエニ
田中宗碩　馬場休居　吟味

同乱掛子後ノ謡出シ取附頭

鞍
タ　ひうきの女乃
菅よかま白川の波ノ〳〵
　　白川の

半返シ之序

南無阿弥陀佛　ねもや

井筒段之序

菅男ようりまし
　　ゑもめりも

是ノ手時ハ枝見ノナシレノ形ノ仏ナシ地ヨリ仏ナシ
此段ノ序菅原都ニ名ク大倉流大秘事ノ由

三輪　イロヨ有ヲ

ここやその夜とそやなりわり
イロヨ有ニテ大回リニテ指掛リ〳〵行袖シカヌ
ヨ時大ツ仏サブタイ〳〵八級リ初前ニテ泣ム

熊野　三段ノ舞

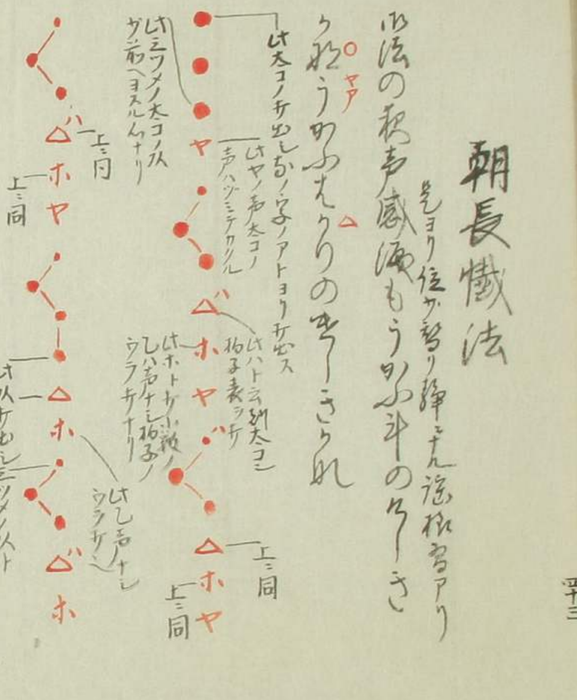
常ノ三段ノ所ニテ　二段目ノ所ニテ　初段ノ舞

二段ノ舞　三段ノ所ニテ二段ノ舞
二段目仏ナシ右ニ有
地仏ナシ

三段ノ所ニテ三段目ノ舞　三段目仏ナシ認ム

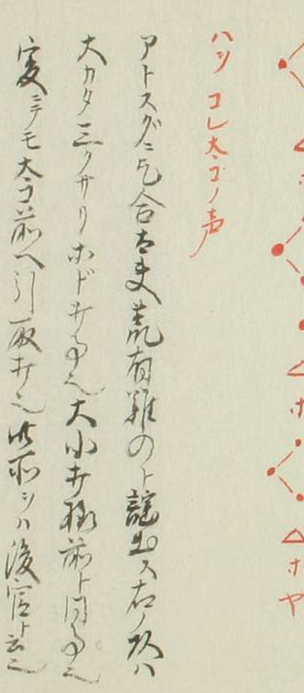
石ニ通ル福山行次第ニ序ノ舞ヲ頭ノ勤

朝長懺法



仏声ナレニキ出ス右五クサリノ名太コ皆声発
太敲キヤウハ太コ仏ノアトヘキザミニテハト拍子ノ
表ヲキリ小敲ハミアトヘホト声ナレニ拍子ノ裏
ヲキル敲又五道四クサリ目前ヘ引敲太コノ仏ノ
アトヘハ太敲ノキザミニテヤトキリ是モ拍子ノ表ヲ
キルミアト小敲ノ打ハ前同ナリ
仏五道ノ仏ヲテ太コ引出ス大敲モ後ケル
タトヒツケ敲多クキリヲトモ四ツノツケナリヌク
ツケ又名キツケハキレズ太コ引ノ名ハ
イワマテモツケキリヲ敲出シ前ノヤト云
引成程含ノ入テ太コニアタラヌ様ニキヘキ
事ヨ一ツリ右ノ五道仏ノ六道ニキテハ同ヨ
斗ニテ名キ改太コ引敲仏二度モ三度モキ
ヨモ有又有ノ五道ノ書分ニハ引五仏一度
有ヘトモ五道ノ内ニ引敲仏五度モ三度
トカク前モ書ゴトノ太コ名ヨ敲有ヘ

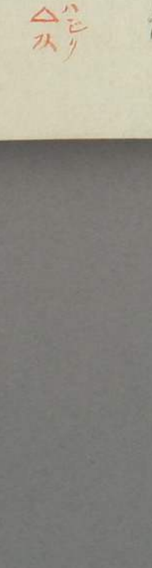
能ク〻合ヌお勧ベキ大敲ヲ拍ハ太コヒ
以下内ハイツマデモ別ニテハトアレライヲ約ス
前ヘ引板以ヲ時ハ別ニテヤトヲ太コ以外ニ
右ノ五道ノ以ヲ色テ太コ別出ス時笛呂ヨリ
吹出スヲ時ヲ吏出ルヤリ指掛リ中程ニテ
ヲ吏ヲ踏笛ンヲ時太コ別ツ〻ケル中ヨリ約
掛リ以ヲ又約掛リヲ切以ニナルモ有
此所ニテハ太コノ以大方二ノサリ程ヤリ宛ニモ前ヘ
引板以ヲヤリ大小アレライ前ノヲ拍ハ中ニ拍右ノ
以ヲ色テ太コ又別出スヲ時ヲ吏踏出シ無者ヘ



四四

入ル拍ヲノ所ニテヲ踏笛ンヲ時ヲコ約掛リ
ヲ切以ヲ

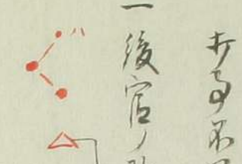
アトスガニ色合ヲ吏荒有雅ノヨ読出ス右ノ以ハ
大カタ三ノサリホド下ヲ
宝ニテモ太コ前ヘ引板ヲ
一引板以ヲ約掛リノ以ノアトヘモ作ヲテモアリ
一天敲ニ大小ヲ以有色ハ五道ノ以ヲニテモ拍ク
ヲ以ヲリ色ハ二段目ノ敲ヲリ



是ヲ別太以ト云コレハ以ノ名ニテハアラズ大敲ノ
以ヲニ依テ大以ト云ヲリ首

禁中ニテ儀法ヌ 作法ノ時日楽奏而ハ第
ラル〻時大頭一両ヨリ笠緒ニテ右ノ双ッヲセサル
サレトモ心得不宜ヤ双二ツヲアトハ結シヲサレベ
上手トイハル〻日楽ノ〻ミニ叶ガタキヲナレバ
左称ノ者ノ〻ミニハ中ト独及ブ一儀法ハ和ル
事有ル〻ニ右ノ双ヲ心ニヲ守ヲ不ニ有首座ヲ
ヲヲ不ル事ヲ

一後宮ノ双ノアトニ大小習ノ列シ有時拍子ト云
右列シ拍子ヲ先ヲ儀法ニ太コ鐘ニ合セ拍子
有ル由ヲ以ヲカタドリ首ハ名由ヲ絶シ
右ノ列サレズトテ今程ハ皆テ和ヲ
右儀法ヲ和ヌレドリトカク太コト能ク合テ



コレハ太コノ声ヲリハ次順ニ合セ
ヲヲリ
コノ大鼓ノ列ニツ小鼓ノ
ヲヲ不ル事ヲ

可ヲ勒ヲリ先ヲ心ハスヤ〳〵トヲイルノ
イキヲイ心ヲリ一度ヲヨンコメテヲ笠ヲ
ユルメアトヨリヲ心ヲ能ク〻ヲ多ヲ有ル
右当節ハ一ヲ相伝大秘事頭分

ヲ教

今春ハ右ノ方ニハ法ヨリ陽ヲ生スルヲレハ
法ノ元トモ再動ヒ左ノ元トスル二ヘ儀法ノ
秘事ノ奥儀トスル
教世左右方ニハ陽ヲ表トシ力動現ヲノ元ト
スル二ヘ習ノ事ヲ習ノ奥儀トスルヲリ
今春流ニハ拍子ヲ吾即トテ二通リ有
教世流ニハ五通有ル由

程ヲ礼ヲ事

一礼ノ時深リ拍ヲ内扇ヲ有又指掛リ
ノ中ニモ〻拍アリ礼ニテ事ヲ有ル時ハ拍モ不ヲ

掛リノ如ク折ル、礼ハ常ノ礼ト同ク、亭ニ向ヒテ礼ス、
亭ハ有ノ儘ニテ、亭ノ内ニ御前掛ケテハ為ラヌ
ト云フ事アリ、又御前掛ケテ有ル亭モ有リ、
亭ノ内ニ御前掛ケテ有ル亭モ有リ、
一服点ニ有時ハ客礼ス、其時ハ袱紗掛リ
扇ハ常ノ時ノ如シ、
礼ハ退ヒテ亭ニテ礼ス、其時ハ袱紗ノトキハ
出ス、扇ハ又ハ物ニ挟ケヌ、礼ノ後亭ニ
モ又ハ二段ナキ様トノ事カ
一礼ト云ヘハ深キ礼也、浅キ礼也、其中間ノ礼ノ時ハ心持有也、口伝
一礼ノ事第一段ニテ面ヲ出ス礼ニ有
也、其外ハ客生ノ礼ヨリ浅ク、客生ノ礼ヨリ掛ル、
一礼ニ真也、行ヨリ掛ル礼ハ真也、行ヨリ掛ル、
一礼ニ草ナリ、
一礼ニ行用ト云フ有、第一ノ行ハ用ヒス、第二ノ行ヨリ用也、行ノ所ニテ不審ナリ、
呂ニ吹時ハ足ヲ進メ乍ラ吹、ソノ時ハ足ヲ踏ミ口伝、
一壺ヲ作ルニ出ス所有、西面ニ壺ノ上ニシキテ扇シ
ツボノキワヘ約束ノ壺ノ上ニシキテ扇シ
右ノ如ク、
一二人ニテ礼ス、第一段ニ有ル時ハ一段ニ
第ニ壺ノキワヘ約束シトル、ソレハ
扇ノ元ヨリ上ヘクミ入レ時礼ヨリ第ニス時左ヘヨリ折ル、又
扇ノ通

一二人ノ時又ハ先ヘ出ル筆ノ時モ同前ナリ
ヒヨロ入也

礼

手也 第角ヲ巡リ二ツ小巡リ手也
名手ヲ九ル 西面ヨリ中ニテ礼ヲ乱ス
ナル 真草 習リ

掛リ初度キ合ニツカリト太コ以下ヨリキツ打
太コ以 ヒヤヒヤリ ヒウヤリヤラヽリトリ
ヒイリツラロ トルラ トルラルラヽ
ヒユイタルラヽ ヒユイタルラヽ ヒユイタリウヒヤラ
三度 ヒヤリヤラヽリトリ
ヒユイタルラヽ
トルラ トルラルラヽ
ヒユイタルラ ヒユイタリウヒヤラ
ヒユイタルラヽトルラ ヒヤラヽトルラ
太コ以 ヒヤリヤリトリウヒヤラ
三段ノ以アトニテ三段ノ手打モアリ

ヒイリツラロ トルラ
ヒユイタルラヽ ヒユイタルラヽ
ルラルイヤルラヽ トルラヽトルラ
シヒヤイタルラヽ ヒヤリヤラヽリトリ
罰 ヒヤリヤラヽリトリ ヒイリツラロ
トルラ トルラルラヽ ヒユイタルラヽ
ヒユイタルラヽトルラ ヒユイタルラヽ
ヒユイタルラヽ ヒユイタリウヒヤラ
ヒヤリトウヒヤラ
立段 ヒヤリヤラヽリトリ
トルラ トルラルラヽ ヒイリツラロ
ヒユイタルラヽ
ヒユイタルラヽ ルラルイヤルラ

ラ、トルラ、ヒヤラ、トルラ　シヒヤイタル

ラ、ヒヤリヤトリウヒヤラ　大コ又

六段　ヒヤリヤラ、リトリ　ヒイリツラロ　トルラ

トルラルラ、　ヒユイタルラ、　ヒユイタルラ、

トルラ、ヒヤラ、トルラ　ヒユイタルラ、

ヒユイタルラヤラ　大コ又　ヒヤリヤリトウヒヤラ　大コ又

七段　ヒヤリヤラ、リトリ　大コ又　ヒイリツラロ　トルラ

トルラルラ、　ヒユイタルラ、　ヒユイタルラ、

ルイヤルイヤラ　ルラルイヤルラ、トルラ、

ヒヤラ、トルラ　シヒヤイタル

ヒヤリヤトリウヒヤラ　大コ又

大コエコレヨリヒツメテヨシ　舞　ヒヤヒヤリ　三段ノ又ヤ但始メ大小ヲ合ヒテシ

ヒウヤラリ　ヒヤイヒヨイ　ヒヤリウリ

右雲間流吹物ナリ

一管流礼

礼ニ於ノ物ト云ハ礼ハ初ナリト云心也

五段目ヨリ地ノ手板ヲ吹ト云ハ五段目ヨリ地ノ手板ヲ吹通ニ吹吉板地ヲ吹

不吹故ニハアト地又手四段ヤ又地又ヤ又

五段又地又ヤテ誌

囃ぶニハ地又又四段地又

六段ヨリ七段迄ノ間ヲ吹ヤ合ヒ吹ヤ二ツ有ヤ合ヒ吹ヤ二ツ

大コ吹止舞ニナル後キヲ吹ヤ止ル迄吹通ス心

ヒヤリヤラ、リトリ　ヒイリツラロトルラ

トルラルラ、ルラルイヒヤラ　ルラルイヒヤラ

トルラ、ヒヤラトルラ　ヒユイタウラ、

ヒヤリヤラ、リトリ　ヒイリツラロ

トルラトルラ　トルラルラ、　ヒユイタウラ、

ヒユイタウラ、ルラルイヒヤラ　トルラ、

ヒヤラトルラ　ヒユイタルラヽ　ヒユイタリウリ
ヒヤリヤリトウリ
物段終シ　二段四段　中　三段五段七段長シ
七段ニテ太夫斗入ル見合終ノ吹シ大小笛ニ終ル
又云
物段終シ　二段三段　中四段長シ　五段中
六段長　七段終シ
此ノ他ノ間ニ打物ヲ入ル事ナシ
若シ他ノ打物ヲ入ル時ハ名ヲ書ス
○-○-|-●-|-●　|-●-○-●-|-●-|-●-|-●-○-●-
此ノ地ハアトノ地ヘ分テ打ヲ是ヲ習ヒ
乱　掛リ打ノ事ニテ第二ナルニテ角取ヒリ
ニツ小出リ五ツ正面真中ニテ乱ヤム
ハ●　ヒヤヒヤリ　ヒウヤリヤラヽリトリ
ヒイリツラロ　トルラ　トルテルラヽ
ツケ　ヒユイタルラヽ　ヒユイタリウヒヤラ
物●ヒヤリヤラヽリトリ　ヒイリツラロ
トルラ　トルテルラヽ　ヒユイタルラヽ
表ノ地　ヒユイタルラヽ　ヒユイタリウヒヤラ
ヒヤリヤラヽリトリウヒヤラ
ニ　ヒヤリヤラヽリトリ　ヒイリツラロ
トルラ　トルラルラヽ　ヒユイタルラヽ
ヒユイタルラヽ　ルイヤルイヤラ
ルラルイヤルラヽ　トルラヽ　ヒヤラヽトルラ
ツケ　シヒヤイメルラヽ　ヒヤリヤリトウヒヤラ

四段ニ三ツメシメフク

上ゲ ○ヤ △ ●ヤ ●ハ ヤ ●ハ ハ ●ヤ ● ハ ● △ ●ヤ ●ヤ ●ヤ 常ニ三返吹之

五段ニ三ツメシメフク

○ヤ △ ●ヤ ●ヤ ハ ●ヤ ●ハ エイ ●イ ●ヤ ●ヤ △ △ ●ヤ ●ヤ ●ヤ ハ○ヤ、

六ツメシ三ツメシメフク

●ヤ △ ●ヤ ●ハ ●ヤ ●ハ ● ハ ● ●ヤ ●ハ ハ ● ●ヤ △ ●ヤ ●ヤ ●ヤ シロス

七ツメシ三ツメシメフク

○ヤ △ ●ヤ ●ハ ●ハ ヤ ●ハ ハ ヤ ●ハ ●イ ●ヤ ●ヤ シロス

乱ノ地

○ヤ ハ○ヤ ●ハ ハ ●ヤ ●ハ ●ハ ○ヤ ●ハ ニツサリ ●ヤ ●ハ ○ハ ヤ ●ハ ハ

○ヤ ●ハ ●ヤ ●ハ ○ヤ ● 三ツサリ

吹ニ付トモ地ノ弁極三色ナリ

掛リノケテ 初二三ト云 又掛リト 初二三ト云

コレ小笛之

囃子ニハ 掛リ二三四五段ニテツ留ル

初掛リ 二段常ノ二段 三段ツメ〈ム四ツ付ル吹

四段三ツツメ〈ム吹 五段二ツ鼓吹サ?

呂ニカヽルハ初段常ノ第ノ通吹モ有シロヽヨリ乱ノ地ヘ

掛ル掛リノ吹モ大乱ノ内ハ鼓モウゴカ[illegible]ナリ

催花拂来歴

唐明皇遊花苑已凋謝

撃鼓催之花拂皆発

右者菅野家大秘事田中吉兵衛

書物也田中理左衛門持候ヲ豊慶

老ニ相頼寛保元辛酉歳下春ニ

写之ニ置道也豊之綱ニ写サセニ置道也

然ル所右ノ書物紛失ニ付

天明四甲辰中春ニ豊慶老再写也

年七十四歳之

右之書物豊慶老芸室ヨリ此度

借り請写置也

寛政二歳庚戌正月　安親写之

一平流一調一声ノ手方

ゐさうけいさやこもりうん

ヤ・○○○○○○ヤアフ○フ○フ○○○○

イヨイ・ヤ○ハ・ヌハ○ヤア○○○ヤイヤ△○○○ハア○○○

ヤア△イヨイハ○ヌハイヤ・ラホチハナシヤア

・・ヤイア・・く・・・イア・・ハ○ア 急激る。

名ナシ

仮ヌハニヲドリ△イヤ△△△○○ハム△イヤイ

・イヤ・ア・ヤ フ○○○

ケニヲヲニヲノ△ヲノ手キリノ

ヌ・ヤ○ハ・ヌハ○ア○○ヤア△メ△△○○ッ△メ

○○○○○ハア ヤア△イヨイハ○ヌハ 狂女ノ舞クヅシ

名目

綟リ 指サシ 指声コエ 指詞コト

曲セイ 舞 和カ 急キリ 限カギリ 囲サカイ 隠カクル

論ロンギ 議 撓タワム 張ハル 附ツケル

岩チカ 蒙ヒラク 香カグハシ

呑ノム 躍テ 手 送リ

抱カカヘル 餘アマス 撃ウツ 声コヘ

調ミテメル 糸 彩イロエ 翔カケリ

走ハシリ 径ホド 働ハタラキ

弾ハジク 品シナ

序チョハ 破キリ 急キフ 律リツ

名目
曙（アケボノノ）一ノ
鶏鶏小町 一ウ
木賊 二ノ
砧 四ノ
勧進帳 四ウ
浦下汐 五ノ
千手 詩ナシ 五ウ
舩辨慶 別ノ巻 五ウ
大江 ヒ六ノ
半江 ヒ六ノ
奥右敢 六ノ
緑江 ヒ六ウ
善知鳥 組歌ヒ 六ウ
相頭 牡丸柳 六ノ
勝行（ショウカウ） 摠退（ソウタイ） 六ウ
弱法師 七ノ
三井寺 詩ナシ
三輪 神楽 七ウ 誓紙
白傷 七ウ 八嶋 白川 三輪
笹柏子 八ノ
念佛柏子 白川 八ノ
軒端梅 十ナシ 八ウ
千手 重教 九ノ
金剛江 ヒノ敢 取郷 九ノ
糸車 全秋 九ウ
三井寺 三尾ヒ碧ル 流ノ 九ウ
片流ヒ玉苅 糸車 浮舟 弾九
熊野 三尾ノ舞 十ナシ
桜川 十ナシ
狂女ノ越一声 十ウ
翁頌 十ウ
百万 十ウ
他流下略ノ事 大教 十一ノ
迎向ノ手 急破 十一ノ

信川竹 今釈
観世流大鼓 大蔵
海士融 鼓
紅葉狩ノ手
項羽有
半蔀 セイ
礼腸
放下僧
安宅 関設答鬼
六根拍子
序 シラベ留
小敷ヨリ十二ヶ拍子
駿馬天狗有
橋ノ山有
五段ノ一声
別指流派
善知鳥
山姥 長キ鼓

一角仙人 今釈
源太丈有
清経 還幸頭
心魂ノ剣
延年ノ心
節守留
山揚一声
和布刈一次第
松風流留
大口小サ刀僧
清経 亦口くノ手
懐中ノ舞
大臣小サ刀
応討留我ノ手 朝敵治罰ノ手
通小町
来迎拍子
幸於薬小町 九流ヲ分
頭取ヲ出ス事

宗清 千　　如意 千
大流ノ事　　小敷乱ノ手ホ
平調 越ノ干　　甲ノ掛リ
神楽一調　　二重スハリ
西行桜 本三段ノ女ノ事　　鶴亀ノ舞ノ干
風流ノ干

當麻 カダトニ干
定家 ツモナノ干
一番一調
照君 錦木 早苗ノ掛リ

曙

ゆほのよ井ら月のタ郎ハまる
山乃もつふ教えて物えよ考り
る松ろる楫乃秋れいろくよう
たりゆるり人ぶれいるよそも
うつふうたま秋を汁まと教むの
方ありあまにうるひかんなり
市復居号出るもかすけるや
あ引乃山望ものれと君をめえ
安も雲井れ郡と
ともふ出入个松の戸等頂の先や

九重のうち

鶯谷小町

ワキ名乗ヲテ一声ヲ云カケ

ツレ

又

ヨロ

ワキ

ツレ

一今日ハまいる者の

一枝いうへも

一たゞ和歌のほとりや

一ものもふ

一夢乃通ひ

一たゞとうふのたゝふくのう

一桃花笑テ

一今朝ハとおもひ

ひ志也る小町か哀かり久し

一玉津嶋よ来つゝく

謡カヽリ五段　初段ヨリ宗メテ序ノ舞如キ
三段目地以ノ前ニテ休是スル長地ノラスニ
サテイルナリ　口傳アリ　ワカ

一荒益しの首やか　サ上以合テ　又ヌク以モ

かくてけ日も

一ゝ孫くと互別是　ヒ四ツヌキアヒライヒ

一冨ちの紫の唐よかへり　出足

●●●●●●●●●●

シロシサ枕

▲▲フホ　○○○○○

是ハ常ノ宗ナルヿニサテモヨシ

●●●●●●●●●フホヤホフホ

○○○○○○○○○○○　合テサニ

本職

ワキ次ヰ三段目雨　道行如常

ヒテ一セイサ出シ　ヒヒギテ雨ニ○○○○　あふ山のサ出ヒ同ジ

謡○○○○○○○○○▲○

○○○○○○○○○○

○○▲　詠め常

一本織刈山の名近も　ヒテ一セイ乞合　ヒハヒリヌヌク四ツノ合セ入モ

一荒や高役ぬきらん　サ上　サシ

一ミゝけやみゝけみの　ハシトリ

一かりてそらふよ　シリ

一 未中しるるとやまちちちのたね

あら無し/\

一 殊さんのいよ/\と

一 飲酒の心ゑけて　クリ以ナ在ノクリ以ヨリハナ心得テシツカリトナヲ

一 維花行の更るりとも孝息の心なかりなん

やと恨の別ゑゑ連くり

一 石の日乃ゑりれ

一 ましると人や此殊なまえん見ひるさも

子と思ふ涸とや　序ノ第　ワカナ上

一 言らやうぢと思ふ

思るも盈　五花の月乃移よるひ

一 親和よくるり/\　荒悟めりや

口。イエイ うらめしやたく

一 あいもの五かくりなり一日又よ思えよ

り　ナリロギ

一 こハゆめり夢りとても

一 浮世殊りよ成よれり/\

又 色らいまうい妄相もましると人や

此殊なまえん見ひ涙も

二段目ノシロシ花女ノシロレシツナル

砧　ホロ/\ノ手真ニ記ス　且ニ任写

去紫をかいを繁さよく　・○○フホフホフホフ

ホフホトヰナナリ　三瀬川ト訓任ニ射ナし

観世流ナレバ太コニ流第ノ樹梓シナ見本ノ

ナ方ニ他流ハ出場ニスルヱ不識ニナナリ

寛三年梓トメも合モアリ云ハ
うてやくと称の福ト云所ニテ
ヒノヌリ合ヒラサテヨシ

勧進帳

大ニツケトキ
一ロ
ロ一ツケトキ
おくれ

前ヨリ合ヒトキ
えらう勧を懐ハあくハ
う御茶の子あ一ぷく
ら姫と名ゆつくりとうよ社僧よれ

前ハ為ノ通
恵善やこゝろく源泊まるこよ
あるく源をゆくり思ひのを
善悪よりくして恵遊郷得と

建立ハ加祖の男場の物もん事を
ゆつくり復家坊泥源法事を勧を
也一泊まるの事我のゆまハこの
世そハ元元の楽よう苗朱
そハ枚の蓮花のうへ
功命勢首弱白と天もうけ
と演ようり実のくを所を
おそみてゆくり

ゆつくりとまもりて

浦下泊
ステル
迄リの　遊年神小　二所ニステル也

千手　初段詩ノ手組

一扇ものてうるる情あるうた事をさめよ
扇ものてうるる情あるうた事をさめよ　大扇ヨリ小扇ニ手一扇ノ手
クダリニ手ヲ約ス也

一扇ノサシノ如ニ手行
只今御一ノ御扇ハ秀も小扇ノ御能
此詩を御ニハ人をもうるつとめ
つケ剣ハリ
さく扇ヤ名と宮ハ　大手ヲ左ノ通
ヨリ左ヘ作

船弁慶　別レノ筆ト云

一さ支二段目ノ名ニ右又三段目地次ノ前ニ
ニホンカハエモトニテ先女ニ手ヲロニノ手ヲ
手ウツリ能ヲヘシ

一同　赤奇ノ名ニ右由　不表裏

一 浮ノ事也 同事ヲクリカヘシ打放ス

くりかへし

善知鳥

一 烟霞ニ此時ハ地取不捨ニ打常ノ通ニ
打上ル 親ハ空○○ 曲 地ヲ走ル跡（五音ノ早西ノ手打ス）

膝行（ヒツカウ）

一 太夫絶拍ツ書ヒザツ立通ニテワキヘ
波入ニ時上ル

膝退（ヒツタイ）

一 右ニ通ワキヘ波ニヒザツ揃ヘ引テ ナツル
三附打上ル 何モ急ニ上ル之 太夫ニ可附

弱法師

一 三段ノマイ 花打 初段ヨリ栄人ル
初段ヨリ序ノマイノ如ク盲目ノ舞也
打掛ニ心得有ヘシ

三井寺 物ノ打掛

一 玄宮の月よ（奈天打） 百詩ヲいたく（変テヨク）
圓くとして（物ノ内不打） 此後句かろし（奈天打）
心をすまして（ヨク） 此句をまふけて（変ヨリ奈天）
此打掛ハ当流ノ大鼓ノ町打之
他流ト打テハ奈天ヲツケテ外ノ通
打テノヨシ

三輪

一神道神樂ノ時ハ別當ヨリ
修ス打神樂ニヨリ太敎打出ニモアリ
二段目ニテ太ヲ三敎ト云事ヲ打也
左手ニモスリ拍子ト云ヲアリ大小
トモニ入ル敎ノ打方アリ三頭有時ハ
番組ノ事打通ニ打ス納ト事也
チカヒシサム儿ト云心ナリ
一ハシヤハヤ（曲ナリ）ヨリホド入拍子ニテシテヘ
ヨリホドハヤシ乍ラ打ヘシ

白働　八僧　角田川
三輪

働アリ

一到宮ヲ乱打ヨリ角取廻リセヲキニ
修ス時ハ廻テ立角取廻リセヲキニ
カヘシ乱打ヲ祓神クヅシ笛入佛ヲ

一名ノリ

働アリ

一もろくとも
白働打方ハ何ノ事モナク白湯（サユ）シ
呑如ニ打ナリ此心得ヲ打ヘシ
打方ノ心得口傳ヘ

働アリ

笹ノ拍子　太敎

一夜念佛中ヲ入ヲよ（笹ロホ笹）
やゝきん

念佛拍子

角田川

一此拍子ハ左ノカヽヲヨリ
ゆんを左ノカヽハ本地ノ門ヘ打也トカリ
カヽニアタラヌ拍子ヲヌイテ打ベシ
又云カヽノ打方　南無阿彌陀佛
是ニ打モアリ

同音同名阿弥陀佛　南無阿弥陀
佛南無阿弥陀佛　南無阿弥陀佛
南無阿弥陀仏　隅田川原の波風も
声立てそへて　南無阿弥陀佛　南無
阿弥陀仏　南無阿弥陀佛
此段六ツ拍子也　習

[illegible]梅　中ノ拍子　観世流　大口傳

一 [illegible]山の山乃雲と[illegible]都の
刻返シテ拍口傳也
実も遠く[illegible]や膝までの雪かな
[illegible]　ツカヘ拍子

千手　重衡

一 ワキ重衡ニ先ニ立出ル重衡ハワキ座ヘ行
内ワキハ太鼓座ニクツロキ居ル重衡座ニ
ツリ返シ重衡ノ北ツ拍サイル重衡座ニ
ツイテワキ立足ノ留リニテトメ節拍也
右口傳ナリ

一 まつしよの詩合よ　家ニテ又ノ合ニ入ヘシ拍子　合セテ只ハ
太鼓大ニハ不拍大鼓合ニ入ル時ニ拍之

金剛　通し

一 夕顔ノ待謡
邯鄲ノろせいハ夢ノ覚て〳〵ト云所
此二番流儀ニテ金剛ニト云之

毎車　作物之事

一　私車ノ作物ハ悉テ一セイノ内ニ出ル
尚代ハ毎出テ一セイ十ヶ出ス但シ車ハ
古来ノ如ク　毎車ハ金五人ノ内ニテ割ル

三井寺　三服ニ皆ル沼年

一　太夫ジクル内ハ大事ニ金二人ヲ支ヘヤヘ
入テ遣　扱作物出ル分ハ金五人作物ヲテ
沼年サラリトヤル迄

右ノ心持ニテ皆ル故三服ニ皆ル
沼年ト云　口伝

一　机心や形之事

ハヤ流ノ流ニハ外ケニテヤおこなノ如クヤテ
ヨカルベシ紀世流ニハ左支持掛リヨリ留ル

ワカクト約テサシ込ヲ
改流ニヤテ仕事ノ合ヲ
方有ヤラン　玉手流ニハアリ

一　玉箒　深井　蝉丸

ハヤ三番ハ庁流ニテヨカルベシ流ニヤ私
手ノ内ノ心有ヘ
一段とゐれハおゐ（ゐ本ニ）
（ゐ本ニ）

一　無節　三服ノニイ

初イロヒ一ヘシ皆リ宮ニテ出ニテヤ
三服目ノ服取ヨリ三服目ト
ソリカヒリノ服取也　私合三服ヤリ

桜川　一頭ノヤ出シ

一　ちりかゝるゆやくと

狂女一声越ケ様

●●●●●● △△○○△ △△ッ○○○○○△
●●●●●● △△⊖○○⊖○⊖○⊖○○
ヤ○ハ○ イヤ△
ハ○ハ○ヤバ△ヤ○○ハイヤ△
カヘテ △△△△⊖○⊖○○○ハハ○△ヤ○○ハイヤ△

翔頭

⊖○ヤ○⊖⊖⊖○⊖○⊖○ イヨイ △ヤ○○
△△⊖○ 後段ノ通り
⊖○ヤ○⊖○⊖○○○⊖○○○ イヨイ △△ ヨセテ
○ヌイテ○ △△⊖○

百万

一 ヤハ留主あれとも 剣居後ヒカエ方習一調ニ方之

他流下略之方様 大数

○ヤ・ハ○ 口イヤ口イヤ 小ハ○ 花ニ則リ聲々ぞあの
下暑ノ方
○・ヤハ・ 口ヤア口 小ハア○ 花ニ則リ

一 歳の木ろし秋ハ寒て △イヤハイヤヲハ口イヤイヤ口 小ハ○数
渺安なす々ろ 香手モオ 紀七又後市手之
ヤア秋の花皆おとろへて○
ヤ秋の花皆おとろヤアつて
ヒル冥木の多井の二様ニ立かくれて△
先ニ々りく△

巴向ノ手

ハ○椒うそ巴向あれうヤホト○ 々成てハいりく有つき

江口 川竹ノ合天

一 ざいごふ深き身と生れ殊にためし
すくなき川竹の流れの

六根拍子

一 うき世の事にまよふ　囃子ニ打時ハ四ツ打

一 かりにおもへこの山にそほひ　紅錦繍ノ手

一 風ハふけ猶こゝも

常ニ不打ノ手ナリ
一頭一留拍ニ打ツ

観世流大延シ　大鼓

おそろしや　越

おそろしや

おそろしや世ハ

おそろしや

けすき ヨシ

序ノ白シノ替

○　常ノ通

○○○　替ノ通

海士　融ノ越

○○○○○・○ △ △ ○ ○

・・・・・△△△△○○○○

△○○△

小鼓ヨリ打上ル打様

一 何ニテモ大鼓打上ヨシツキ時ハ小ヨリ打上ル
地次打テ立ニ △△△○○△△○△
此時大鼓ノ声ツツナイテ打ナリ

紅葉狩ノ手

一 花 妙なりき山のけよ月都かたの

鞍馬天狗

一 さる人もなき山里の

項羽

一 呂る臺ハ 出れく

横山 野守 大鼓

あらはしたりこれぞのとりのかゝみなる

これぞのとりのかゝみなる

あらはしたりこれそのとりの 鏡二ツ 大ヨリ打出ス時ハ

半蔀 一声 打極

此一声打テ行ト云

作物ニ入テ出ル時ハ 三地 ツヽケ 地テ打

○・・・! 是ハ出端ト謡

一セイニテ出ル時ハ

三地 ○○○○○ トサツヽケ和 大地打

ワキ作ノ如ニ打切 三地 ムスヒ 大地打

大鼓作物ニ入テ見合 謡く

一 夕たるこれこれをこれをまきまきせ

又 これをまききせ

五段一セイ

一 越ヱテノ二段目ハ上ノ時打也二段目ヨリ打テ出ル 下ノ時ハ二段目ヨリ越ヱテ出ル

礼服ノ事

一 ワキ座敷ノ内ニ出ル又さるさるニテ出ルモ有

さるさるニテ出ル時ハ座ノ通トメニカト打

ニイイ足ヨリ地シ一ツサリツヽ元ヽ極ヽ
ヰワキ出ヒテ柱ノコ元ヨリツメテヰ
ヒテ柱ノ先ニテ礼シスル時名ヒシキ吹
ツヽ止ル大敬ノ礼ッヰテ中器ニヰ切
早メ敬ヰ為ノ通ヒ

別ツメル法事ノ事

一ヒ膊ニヰテヒヒ小所 先ヨシ
変足ノ間ノ見テ〇・・(ハアト)声斗掛ル
ヒ膊ノト祝 右足出テ大小前ヘ向テ
足ト九時ヰ ヒ第ノ動作ヲ績ク
時祝ヰヤリ(ヒヰ)極ロ俯ヲ
ヒ面同法ノ布ヲ敬ニハ四枚ヰヘヒ
為ニヒヒ変ノ足ト三ラハイツレニテモ
(ヒヰ)祝ヒ四枚ッツヰヰヘヒ

十三

教下僧

マイノヰ上テヤア〇〇ハ〇ヤハ 面白の
能流ヰ上テヤア〇〇〇ヤ和ヰーろの
笛地ヰ上テヤア〇〇△ハ和ヰーろの

善知鳥

一ちやれまでいうとふやをそろことをみろーと
もハシンイヤ△ーム うとふやをそろことも
〇 小舎尺ヰ 〇〇〇 うとふ面すろこと
(流第) 前ノ通ヰロケ
一ちやれまでいうとふやをそろことをみろーと
ハシンヤ△ーム うとふやをそろことも
ハ川 (イヰイ)ヰカヘス

安宅罠段ノ次第ノ事

常宿ニ入ルヲ右ト云ヒアラズ
進ム進ム柵ノ時ニ入ルヲ大口ト
云テ中程ニテヤア○ユイヤア
○○○ト云フノ通ニ三段目ノ中略ニ
ト申

山姥 セキ銭

前ノ通ニテ云ヘタタ○○○○
ヤハイユイヤ○○イヤ
△
ここをたつと ばりと云ふ
ヤハイユイヤア△ハ○ヤア ツム○○
コノ声ノ間ヘ入ルナリ
中位ノ拍ニテ云ヒ
ヤハイユイヤア△ハ○ヤア タホトニ ツム○○
ホト

ヤハイユイヤア△ヤア ツム○○
ヤハイユイヤア△ハ△ヤア ツム○○

一角仙人 仙流
ニシクリトニ合ス人

おーくのたのつれまも仙人の
地拍子ニテ合ニ附ケ地ノ拍ニ
チホト タニテ打ナリ

源左史ノ元服ノ事

神さびるまる杉ろにおそ口
人けんのろくるりとも

清經 還幸頭 大鼓

一門ハ気を失ひ力を落して
足よハくるまのきこくと還幸か
しかるへかりし有様

同 心魂之釧

此託宣あらたなる心魂に徹る

老年ノ心

三段目ノ始常ノ如取テ三ツ目ノ所ニテ
ヒヤロラリヤリノく フラウラウラ
ラウノく ラア ラリ リリ

砧 ホロくノ手

まして旅寝のほろほろほろ
はらはらと いづれ砧の音やらん

野守 留

大地をかつぱとふみならし大地をかつぱと
ふみやぶつてならくの底にそ入にける

海士 懐中ノ舞

一 五段目地ヲ打内ニ縫ツ取出シテ大皷ハ波ニ
ヤヒイル太鼓ヲ打出ニ打ツ三ツ急ニ打ツ也ナリ
心得テ打ヘシ

夕顔

山ノ端ノ一セイ

笛ニテモ合ヰテイルヤウナ所ヲ拍子ヲ取ル人ガ拍子ヲ
ヲ語ノ間モ笛ニテモ合ヰテヰル也

亜山の雲ハたちまち紀ノ川ノ上ヲ横ニ走リ
カレノウテヲ流ス体ニシテ拍子ヲ取ル人ガ拍子ヲ
拍子ヲ切ズニシテトル也

深谷とうや（シテ）シリ　実ハまろく
但シ他流ト云ハ一セイニ流ヲ云ヲ也
小敷ハ不残ま葛城ノ心ヲ云ヲ也
他流ト云ハ大方ウタヒガ終ル実ハ
一セイたゐ松ニテ云ヲ流ヲノ事ヲ云ヲ
大口物也

和布刈

此ノ間ハ常ノ脇能ヨリ位ヲ上ヲ事ヲ也

松風　流ヒ

恋ヲの為も思ひもみぢつゝ（ナラベテ　ホトニ　ハイヤ）
何ノ事ナクスラリト云ヲテ法ノヒ心有ベシ
拍子ヨリ上ニ声ニテツナイテ（ケシテ　ヨリ）
松よ吹ら風
とゞめてゐよの（ホド）ことをけしき夜

同見笛ノ拍子

大数

常ノ通地謡　ハイヤ　ハイヤ
ハイヤ　松よ
合掌笛ノ音ニ拍子ヲ上ル也ハ
ちと心得ト云ヲ

大口小サ刀ノ僧ト云ヲ

ハイヤ　ハイヤ　ハイヤ（三ツモ打ヲ）
急ノ笛ノ

夜討曽我

帆あハ堤の神をこそ祈るなれ
ふつくと投りけ
君のおもよ追立ふうめてくるまれ

右夜半勇敢一番ニ書ケ

朝敵ノ年

きりの離よ立かくれ　キハノ年ナリ
江鴻ト二敵ノ年

通小町

ふるすり衣の
いろかうつる

狂言頼孝　朱雀招ク

一ふしの思ひ出ある名所　聖元流朱雀ノト
思ひ出ありと聞ニ松甲ニテナリ尼招ケル

とと屋小町　古流ノ花

浮衣のそでまがいつつく

頼政切出し

初日出ル・・　雄心ヨリ但ヲ

終ノ段

二日・・　終ノ段

終ノ段

三日

終ノ段

四日 △ヤ○ハ△ハ○ハ 初日シテハ宝生流ナリ

千歳第出ス之

又謡ノ腰カヘ △ △ト△ △ッ○○ヤ ワキ

△ △ッ○ヤ○トモナリ ワキ

一 景清

其の相家をこそ キザミシトシノコシシドル謡ツケ

一 小督

さもつかまほられても キザミシトシアマス

一 當麻ノカダト云了 伽絶ト書

為ノ切世間 此経文ノ分ハカダト云 カタト云ハカダショムト云

謹上再拝 祝言也 ノット

慈悲伽袮 セイヒト謡事 サシスセソ之五音ニ通ル也 ジヒカト云ヨリ面白キ也

大流シノ事

一 賑能三番目狂女芦刈ー右ノ分ニ打ナリ

其門無安位ノ能ニハ不打位能ニ打也

一 声ノ常ノ通ニ打出シ一段打切テ又打切

残ノ所ニテ打

打切テハツアホチホ △イヤ△イヤ・ヤ△ハ△イヤ △ハ△△△イヤリ△△ハ

△△イヤリ△△ハ△△イヤリ△△ハ△△バ△ヤア ○ハ○○○ヤ○○ハ ・イヤ ○・ヤ○ハ○ハ

イヤハ△イヤ 右ノ謡八ツ打 此間ニ小鼓ツツ入

八頭ハ小鼓次第之小鼓不打時ハ謡ニ蔭ノ残ツ打之

云合次第之

八ツ流打上テ出ニハアホチホ △イヤ△エイ チヘフホ△イヤ ハ

・イヤ・ー・ー・イヤ・ハ△イヤ・・・イヤ・ハ△イヤ・・・

イヤ・ハ△イヤ・ハ△イヤ△エイ イヤハ△イヤ

小鼓 乱ノ手所

一 三段メ八ツシロシアト○・ヤヨセ○ ○○○○○ ○○

○○ アト地

一同 五段メ次シロニ○○○○(ホト)○アト吹(二返アリ)
○○ヤア フ○(ホ)○ト アト吹
囃子ノ附ハ六段ナリ地吹ニダレサシ偖トス
能ノ附ハ八段 カヱ吹 カヱス 何段ニテモ地吹ヨリサス

一定家 揉ニサノ
おもかの舞の(宝ヨリフホフホサシ) 有様やな 舞ニ成テ フホくく ニツサ シロス

十九

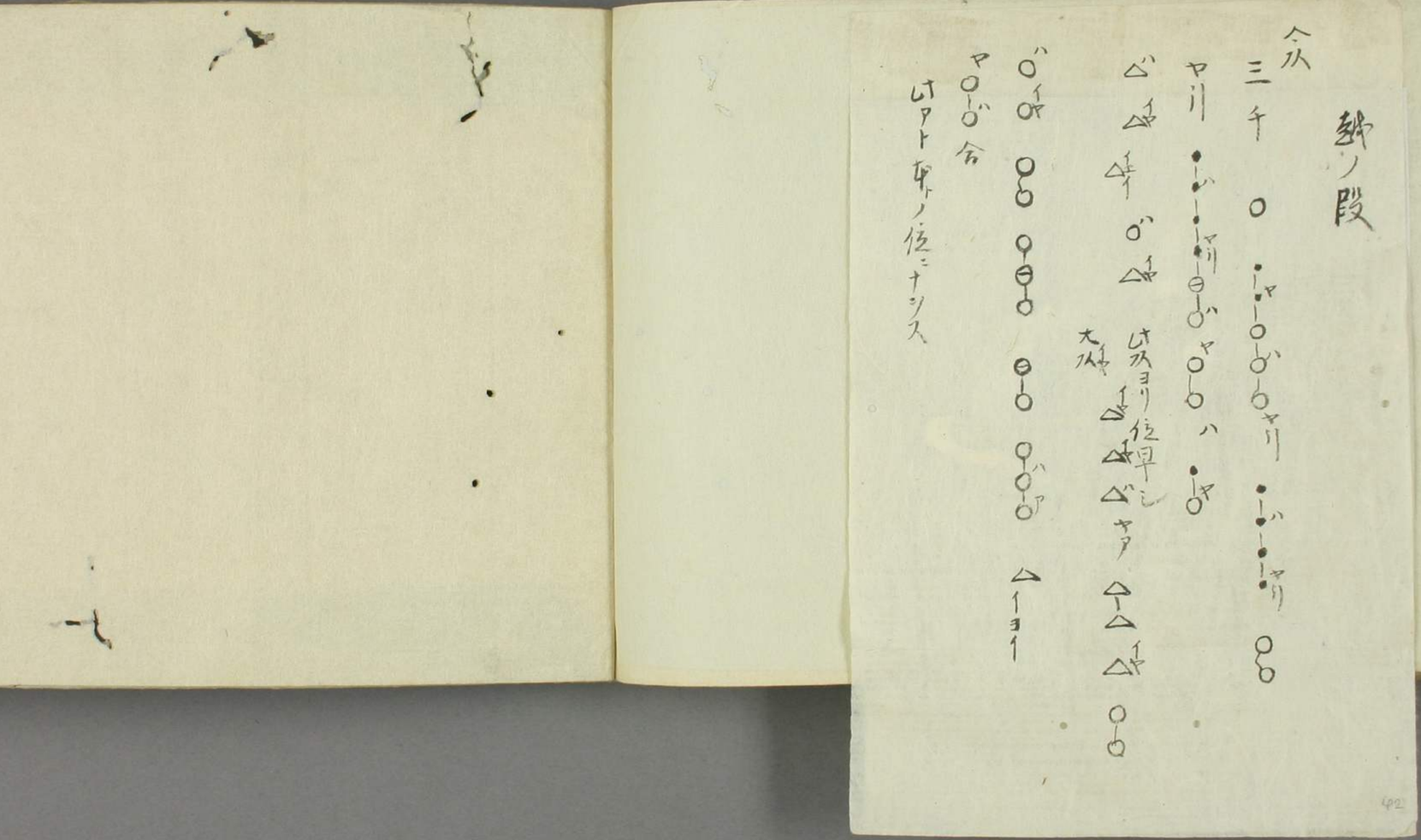
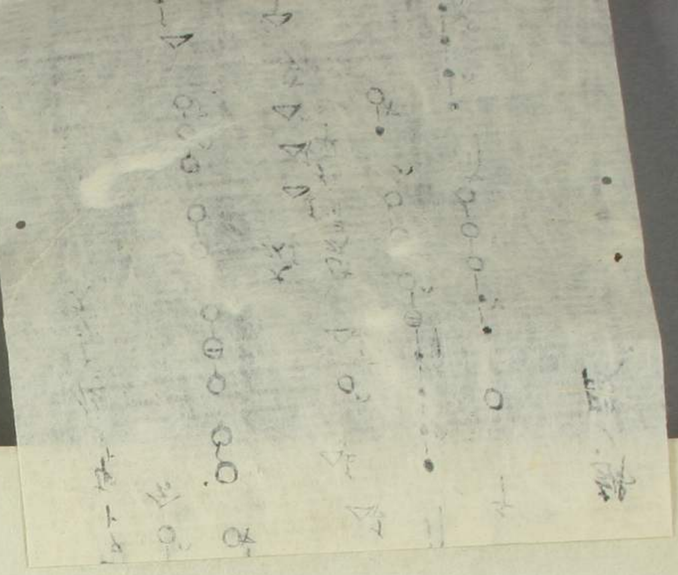
一平調返ニ 江口 采女 芭蕉
一甲ノ掛り 采女 芭蕉 楓女 野宮 楊貴妃
一一番一調 三輪
一神楽一調
二廻 スハリ 乞合同ク采ニサシ声ナシ
一芭蕉ニアリ 一セイ右吹出 舞 ナシ入サシ込ニ元
ホニテサシ右吹舞ニテノ川又吹シ入川故ナリ
●テハ ● ● ●ヤアハツア ● ● ホテホ 乞合
一照君 鉢木
早笛ノ掛り二段返ニサシ也

西行桜　太鼓頭数ヰ事

高やかなるらん　天ハ●ヤ○○○●ハ▲イヤ　太鼓頭九ツヰテ
謡出ス　又七ツヰテモ謡出ス　七ツニテ謡出バ
此間ニ太鼓五ツ二ツ也　九ツノ次ニ十八
すはや数そふ時の数　後夜の謡ナリ
前ニ九ツヰテバ謡ノ内ニ五ツナモ七ツニテ謡バスワヤノ
内ニ太鼓五ツ二ツヰテ後夜のト謡出ス

一　熊野ノ事ハ三段ノ事ト
松風ハ五段ノ事ト云心ハ熊野五段ノ事ニ
三段ノ事心ニヰ也　口伝
七五丈下ノ方ニハ三段ノ事ト云意ハ二段メト
三段メノ間ニチヽメテ事三段ト云時能リ
云合スベシ

天明五巳年四月十九日ヨリ大蔵流大夫於大坂ニ
狂言並ニ左ノ通有之
松竹風流　四季宝珠風流　靏亀風流
八幡風流　相生風流　布留風流

一　葵上ノ東方ニ流ニ世明王ニテ大返シヰ事高野ノ極習ト
平常ハ七ヤ　東方ノ大返シト云ヨシ

第ノ段